

# System Resource Report Pack

ソフトウェアのバージョン : 4.2

HP OpenView Performance Insight

---

ユーザーガイド

2007 年 6 月



## 法律上の表示

### 保証

HP の製品およびサービスに対する保証は、各製品およびサービスに添付された明示の保証書に記載されているものに限定されます。本書は保証を補填するものではありません。HP は本書に掲載されている技術的な誤記、誤植、欠落に対して責任を負いません。

ここに掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密コンピュータソフトウェア。このソフトウェアを所有、使用、または複製する場合は、HP から有効なライセンスを取得する必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従い、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアドキュメント、および市販品に関する技術データは、ベンダの標準営業ライセンス下において米国政府の許諾を受けています。

### 著作権

© Copyright 2003 - 2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標

Java™ は、米国 Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Oracle® は、米国 Oracle Corporation, Redwood City, California の米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、米国 Microsoft Corporation の米国における登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

本書のタイトルページは、以下の識別情報を含みます。

- ソフトウェアバージョン番号（ソフトウェアのバージョンを示す）
- ドキュメントのリリースの日付（ドキュメントの更新があるたびに変更される）

最新のアップデート版のチェックや、本書の最新版を使用していることの確認をする場合は、次のサイトにアクセスしてください。

**[http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc\\_serv/](http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/)**

また、該当する製品サポートサービスに加入している場合、アップデート版や新規版を受領することができます。詳細については HP の営業担当までお問い合わせください。

## サポート

HP ソフトウェアサポート専用 Web サイトをご覧ください。

**<http://support.openview.hp.com/support.jsp>**

HP ソフトウェアオンラインサポートは、対話式技術サポートツールにアクセスする効率的な手段を提供します。サポートサイトでは次のことが可能です。

- 関心のあるドキュメントを検索する
- サポートケースの登録/トラッキングおよび拡張機能の要求
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート契約を調べる
- 利用可能なサービスに関する情報を確認する
- 他のソフトウェア利用者とディスカッションする
- ソフトウェアトレーニングの検索および登録を行う

サポートの多くでは、HP Passport へのユーザー登録とサインインが必要です。多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセスレベルおよび HP パスポートに関する詳細は、次の URL で確認してください。

**[http://support.openview.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://support.openview.hp.com/new_access_levels.jsp)**

# 目次

<b>1 概要</b> .....	7
OVPI とシステムリソース .....	7
バージョン 4.2 の拡張機能 .....	7
フォルダーおよびレポート .....	8
レポートのカスタマイズ方法 .....	10
追加情報の入手先 .....	11
<b>2 アップグレードインストール</b> .....	13
円滑なアップグレードのためのガイドライン .....	13
System Resource Version 4.2 へのアップグレード .....	15
インストール後の手順 .....	16
パッケージの削除 .....	16
<b>3 新規インストール</b> .....	19
円滑なインストールのためのガイドライン .....	19
System Resource のインストール .....	21
パッケージの削除 .....	23
<b>4 データ収集</b> .....	25
SysRes RFC 1514 Datapipe .....	25
OVPA Collection Datapipe .....	25
SysRes OVPA Datapipe .....	26
サブパッケージにより実行される収集 .....	26
<b>5 分散システムのセットアップ</b> .....	39
複数サーバーへのシステムリソースのインストール .....	39
中央サーバーの設定 .....	39
サテライトサーバーの設定 .....	43
システムクロック .....	44
<b>6 データのアーカイブ</b> .....	45
データのアーカイブ .....	45
現在の保管プロファイルリストの表示 .....	46
アーカイブの有効化 .....	46
カスタム保持プロファイルの作成 .....	47
アーカイブデータレポートの表示 .....	48

7	しきい値と変更フォーム	49
	しきい値のデフォルト設定	49
	変更フォーム	50
8	リソースの最適化	53
9	サービスレベル管理	61
10	リソース予測	65
11	例外のホットスポットとクイックビュー	71
	例外のホットスポット	71
	クイックビュー	71
12	トップテンレポート	83
A	バージョン履歴	87
B	テーブルとグラフの編集	91
	テーブルのビューオプション	91
	グラフのビューオプション	92
	索引	99

# 1 概要

本章では、次の項目について説明します。

- OVPI とシステムリソース
- バージョン 4.2 の拡張機能
- フォルダーとレポート
- HP OpenView Operations (OVO) との統合
- レポートのカスタマイズ方法
- 追加情報の入手先

## OVPI とシステムリソース

HP OpenView Performance Insight (OVPI) はパフォーマンス管理とレポートニングのアプリケーションです。長期間のデータ収集、詳細な分析、および対話式 Web ベースのレポート作成機能が、このアプリケーションの主な特長です。必要に応じて、OVPI にネットワーク管理またはシステム管理アプリケーションを統合できます。統合により、障害の切り離し、問題の診断、およびキャパシティプランニングの機能が強化されます。

System Resource Report Pack を OVPI にインストールします。システムリソースのレポートを使用することにより、リソースに関する問題が重大になる前に察知することができます。また、リソースが十分か、不足気味か、あるいはその中間ぐらいの状態かを確認したり、前日の利用状態を週間および月間の傾向と比較したりすることができます。利用度が上昇しているシステムの場合、予測レポートを使用して、パフォーマンスしきい値の到達予想時期を表示することができます。

System Resource Report Pack には、メインパッケージ 1 個、複数のサブパッケージ、および複数のデータパイプが含まれます。実際には、メインパッケージ用に 3 本のデータパイプがあり、それぞれが、OpenView エージェントの検出、OpenView エージェントへのポーリング、およびホストリソース MIB をサポートするシステムからのデータ収集の役割を分担します。サブパッケージは、個々にデータパイプを内蔵しています。データパイプの詳細については、[第 4 章「データ収集」](#)を参照してください。

## バージョン 4.2 の拡張機能

バージョン 4.2 は、新機能、新規アップグレードパッケージ、および不具合の修正を含みます。

### 新機能

- 場所独立レポート (LIR)

- [管理コンソール]>[ポリシーマネージャのコピー]のサポート
- 長期保管（データアーカイブ）

#### 新しいアップグレードパッケージ

- UPGRADE\_SR\_CPU\_to\_42.ap
- UPGRADE\_SR\_to\_42.ap
- UPGRADE\_SR\_DISK\_to\_43.ap
- UPGRADE\_SR\_LV\_to\_43.ap
- UPGRADE\_SR\_NI\_to\_43.ap
- UPGRADE\_SR\_PROC\_to\_42.ap
- UPGRADE\_SR\_OVPA\_to\_31.ap
- UPGRADE\_RFC1514\_to\_41.ap

不具合の修正箇所の完全リストについては、付録 A 「バージョン履歴」を参照してください。

## フォルダーおよびレポート

以下に、メインパッケージに含まれるレポートをアルファベット順に列挙します。

- 1 CPU 使用率のリソース予測
- 2 ファイルシステム使用率のリソース予測
- 3 ファイルシステムリソースの最適化
- 4 メモリー使用率のリソース予測
- 5 メモリーリソースの最適化
- 6 システム CPU、メモリー、スワップの使用率例外のホットスポット
- 7 システム CPU、メモリー、スワップの使用率クイックビュー
- 8 システム CPU、メモリー、スワップの使用率クイックビュー - スナップショット
- 9 システム CPU、メモリー、スワップの使用率クイックビュー - 準リアルタイム
- 10 システム CPU、メモリー、スワップの使用率クイックビュー - 準リアルタイム - スナップショット
- 11 サービスレベル管理エグゼクティブサマリー
- 12 システムの可用性
- 13 システムインベントリ
- 14 各アプリケーションを実行するシステム — スナップショット
- 15 システムボリュームと CPU 使用率のトップテン
- 16 トップテナントランザクション
- 17 システム当たりのランザクション — スナップショット



## 一般的なレポート

System Resource には次のような一般的なレポートが含まれています。

- トップテン
- ホットスポット
- クイックビュー
- 準リアルタイム
- エグゼクティブサマリー
- 予測

ボリュームと使用率が最も大きい場所を調べるには、**トップテン**レポートを開きます。このレポートでは、ボリューム(大きい順)、CPU 使用率(高い順)、ファイルシステム使用率(高い順)にもとづいてシステムがソートされます。このレポートを使用すると、異常な動作状況が発生しているシステムを見つけることができます。

トップテンレポートにあるシステムをさらに詳しく調査する場合は、**クイックビューのスナップショット**版を開いて対象のシステム(複数選択可)を選択します。このレポートには、前日の使用率の平均と、例外しきい値が示されるほか、時間単位で使用率レベルをトラッキングしたグラフも表示されます。

時間単位の平均に集約されていない、最新のパフォーマンスデータを調べるには、クイックビューの**準リアルタイム**版を開きます。過去 6 時間で実際に収集されたサンプルデータを調べることで、問題の状況が改善されつつあるのか悪化しているのかを確認できます。クイックビューで使用率が高すぎる事が判明した場合は、**最適化**レポートを使用して、負荷バランスを調整することがサービス品質を改善するための最短の方法かどうかを確認します。

使用率レベルが高く、状況が悪化していると推測される場合は、**予測**レポートを使用して、使用率が上昇しているシステムを特定します。予測レポートには、次のような詳細情報が示されます。

- しきい値までの日数 (DTT)
- 当日から 30、60、および 90 日間の推定使用率
- 過去 24 時間の、サービスのグレードの評価
- 過去 24 時間の CPU、メモリー、スワップ、およびファイルシステムの使用率の傾向

## OVO との統合

システムリソースを **HP OpenView Operations (OVO)** に統合することにより、障害の切り離しと問題の診断をこれまで以上に迅速に行うことができます。そのためには、システムリソースに付属するしきい値サブパッケージをインストールする必要があります。しきい値サブパッケージは、しきい値モジュールがデータベースのしきい値違反を監視するために使用するしきい値ポリシーを含みます。

しきい値モジュールが違反を検出すると、いくつかの考えられる対策の中の 1 つの措置を実行します。デフォルトのアクションでは、ネットワークノードマネージャ (NNM) に違反トラップを送信します。違反状況が解消されると、デフォルトのアクションは NNM にクリアトラップを送信します。

NNM がデフォルトのトラップ送信先になっているため、OVO 宛にトラップを送信するようにしきい値モジュールに設定する必要があります。この変更を行うには、**SNMP**トラップアクション定義フォームを開いて、必要な情報を入力して保存します。更に、ユーザー自身または当該の OVO 管理者が、OVO 用のトラップテンプレートを作成する必要があります。トラップテンプレートの定義の詳細については、『**Thresholds Module ユーザーガイド**』を参照してください。

# レポートのカスタマイズ方法

プロパティをインポートする、グループフィルターを適用する、制約を適用する、テーブルやグラフを編集する方法で、レポートをカスタマイズすることができます。サービスプロバイダの場合は、グループフィルターを使用してカスタマ固有のレポートを作成します。また、レポートに制約を適用したり、テーブルやグラフを編集する方法が適している場合もあります。テーブルやグラフの編集（ビューオプションの選択）についての詳細は、付録 B 「テーブルとグラフの編集」を参照してください。

## グループフィルター

OVPI の設定でカスタマ固有レポートを生成するようにすると、カスタマとレポートを共有できます。グループフィルターを作成して適用することにより、OVPI に対してカスタマ固有レポートを生成するように設定することができます。グループフィルターを作成するには、以下のタスクを実行する必要があります。

- **Common Property Tables** を使用して、カスタムプロパティ情報（カスタマ、場所、各ノードの IP アドレス、各ノードのホスト名）をインポートする
- 特定のカスタマに関連のあるユーザー全員のためのグループアカウントを作成する
- そのグループアカウント用のグループフィルターを作成する

グループフィルターの詳細については、『Open View Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

## 制約の適用

パラメータを編集する場合は、制約を適用します。制約を適用することで、参照する必要のないデータを除外することができます。**Customer\_Name** のパラメータを編集した場合は、[Customer\_Name] フィールドに入力したカスタマを除く、すべてのカスタマのデータがレポートから除外されます。**Location\_Name** のパラメータを編集した場合は、[Location\_Name] フィールドに入力した場所を除く、すべての場所のデータがレポートから除外されます。

同時に複数の制約を適用することができます。**System Resource** では、次のパラメータがサポートされています。

- **Customer\_Name**
- **Location\_Name**
- **Device**

Web アクセスサーバーを使用してレポートを表示している場合は、レポート右下の [パラメータの編集] アイコンをクリックして制約を適用します。[パラメータの編集] ウィンドウが開いたら、フィールドに制約を入力し、[送信] をクリックします。

レポートビューアアプリケーションを使用している場合は、メニューバーから [編集]>[パラメータ値] を選択して制約を適用します。[パラメータ値の変更] ウィンドウが開いたら、[現在の値] をクリックします。新しい値を入力し、[OK] をクリックします。

## カスタマイズしたプロパティデータの追加

System Resource 4.1 に含まれるレポートには、次のプロパティを設定できます。

- デバイスの IP アドレス
- デバイスのホスト名
- デバイスに関連付けられているカスタマ名
- デバイスに関連付けられている場所

この情報がレポートに表示されている場合は、そのレポートが **Common Property Tables** パッケージによって管理されているデータベーステーブルを読み込んでいることを示しています。**Common Property Tables** を初めてインストールする場合は、**Common Property Tables** に付属のバッチモードのプロパティインポートユーティリティを使用してプロパティをインポートできます。プロパティをバッチモードでインポートした場合は、次の 2 つの方法で既存のプロパティを修正することができます。

- バッチモードのプロパティインポートユーティリティを使用する（ファイルを編集した後、そのファイルをインポートする）
- **Common Property Tables** に付属の変更フォームを使用する

どちらの方法の場合も、詳細は『**Common Property Tables ユーザーガイド**』を参照してください。

## 追加情報の入手先

本ユーザーガイドでは、**System Resource** に含まれる一部のレポートのサンプルを紹介しています。**System Resource** に付属のデモパッケージには、すべてのレポートのサンプルが含まれています。デモパッケージが利用可能で、完全なレポートの表示内容を見たい場合、デモパッケージをインストールしてください。実際のレポートと同様にデモレポートも対話形式です。ただし、実際のレポートとは異なり、デモレポートの内容は静的です。

本マニュアルに関連するドキュメントには次のものがあります。

- **System Resource Report Pack** リリースノート
- **SysRes OVPA Datapipe ユーザーガイド**（旧 **Understanding the OVPA Datapipe**）
- **SysRes OVPA Datapipe** リリースノート
- **OVPA Collection Datapipe** リリースノート
- **SysRes RFC1514 Datapipe** リリースノート
- **Metrics for HP OV Performance Agent and Operations Agent**
- **OVPI Report Packs、CD-ROM** リリースノート、2007 年 7 月

上記のドキュメントは次のサイトからダウンロードすることができます。

**[http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc\\_serv/](http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/)**

OVPI のユーザーガイドは、**[Performance Insight]** の下に一覧表示されます。レポートパックおよびデータパイプのユーザーガイドは、**[Performance Insight Reporting Solutions]** の下に一覧表示されます。各ドキュメントには日付が記されています。ドキュメントが改訂されて再度掲載されると、日付が変わります。改訂されたマニュアルは定期的に登録されるので、所有している PDF ファイルと Web 版のドキュメントの日付を比較して、Web 版が新しい場合はダウンロードして使用してください。



## 2 アップグレードインストール

本章では、次の項目について説明します。

- 円滑なアップグレードのためのガイドライン
- **System Resource Version 4.2** へのアップグレード
- インストール後の手順
- パッケージの削除

### 円滑なアップグレードのためのガイドライン

レポートパック **CD-ROM** には、データパイプ、レポートパック、およびいくつかの共有パッケージが含まれています。このレポートパック **CD** を **CD-ROM** ドライブに挿入してパッケージ抽出プログラムを起動すると、インストールスクリプトが **CD** からすべてのパッケージを抽出し、それをシステムの **Packages** ディレクトリにコピーします。抽出が終わると、インストールスクリプトは、パッケージマネージャを開始するよう、プロンプトを表示します。パッケージマネージャを使用する前に、以下の事項を確認しておく必要があります。

- **System Resource** に関するソフトウェアの前提条件
- データパイプとリモートポラー
- カスタムテーブルビューの削除

### ソフトウェアの前提条件

**System Resource** の前提条件は次のとおりです。

- **OVPI 5.2**
- **OVPI 5.2** に提供されているすべてのサービスパック
- **Common Property Tables 3.6**

古いバージョンの **Common Property Tables** を使用している場合は、アップグレードパッケージをインストールして **Common Property Tables 3.6** にアップグレードします。**Common Property Tables** のアップグレードは、**System Resource Report Pack** をアップグレードする前に実行してください。

### Common Property Tables

古いバージョンの **Common Property Tables** を使用している場合は (バージョン **3.5** 以前)、バージョン **3.6** にアップグレードします。**Common Property Tables** のアップグレードパッケージのインストールは、他のアップグレードパッケージのインストールと同じですが、このアップ

グレードパッケージをインストールする時、他のパッケージを同時にインストールすることはできません。**Common Property Tables** のアップグレードパッケージのみインストールしてください。

## データパイプとリモートポーター

データパイプはアップグレードできません。最初に既存のデータパイプを削除し、アップグレードが完了してから最新バージョンのデータパイプを再インストールします。既存のデータパイプをアンインストールすると、次の情報が失われます。

- 単一リモートポーター用のポーリングポリシー
- 複数のリモートポーター用のクローンポーリングポリシー
- ユーザー自身が作成したポーリンググループ

既存のポーリングポリシーの設定やカスタマイズしたポーリンググループをエクスポートするには、**collection\_manager** コマンドや **group\_manager** コマンドを使います。

### ポーリングポリシー設定のエクスポート

お使いの環境にリモートポーター用のポーリングポリシーが含まれている場合には、**collection\_manager** コマンドを使って、既存のポリシー設定をファイルにエクスポートしてください。

UNIX: **trendadm** ユーザーでログインし、次のコマンドを実行します。

```
cd $DPIPE_HOME
./bin/collection_manager -export -file /tmp/savePollingPolicy.lst
```

Windows: **Administrator** でログインし、コマンドウィンドウを起動します。OVPI のインストールディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
bin\collection_manager -export -file \temp\savePollingPolicy.lst
```

### カスタマイズしたポーリンググループのエクスポート

お使いの環境にカスタマイズしたポーリンググループが含まれている場合には、**group\_manager** コマンドを使って、グループを個々の **.xml** ファイルにエクスポートしてください。

UNIX: **trendadm** ユーザーでログインし、次のコマンドを実行します。

```
cd $DPIPE_HOME
./bin/group_manager -export_all -outfile /tmp/savePollingGroups
```

Windows: **Administrator** でコマンドウィンドウを起動し、OVPI のインストールディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
bin\group_manager -export_all -outfile \temp\savePollingGroups
```

## カスタムテーブルビュー

カスタムテーブルビューを作成している場合、レポートパックのアップグレードが、作成したビューの妨害を受けて失敗する場合があります。作成したカスタムテーブルビューがアップグレードを妨害するか否かは、その作成方法に依存します。**SQL** を使用して作成した場合、アッ

アップグレードには成功しますが、作成したカスタムビューはその後使用できなくなります。データパイプマネージャを使用して作成した場合は、アップグレードに失敗する可能性があります。アップグレードの失敗を防ぐには、レポートパックをアップグレードする前に作成済みのカスタムテーブルビューを削除し、アップグレードの完了後に当該ビューを再び作成します。

## System Resource Version 4.2 へのアップグレード

System Resource Report Pack をアップグレードするには、以下の手順を実行します。既存のデータパイプをアップグレードすることはできないため、レポートパックをアップグレードする前にそれらをアンインストールし、レポートパックのアップグレード後に再インストールします。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は **root** でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows NT:

- a [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [停止] を選択します。

UNIX: **root** で次のいずれかを実行します。

— HP-UX: **sh /sbin/init.d/ovpi\_timer stop**

— Sun: **sh /etc/init.d/ovpi\_timer stop**

- 3 必要に応じて、適切なアップグレードパッケージをインストールして、共通プロパティテーブルをアップグレードします。アップグレードパッケージをインストールする際は、他のパッケージを同時にインストールしないでください。Common Property Tables のアップグレードのみインストールしてください。アップグレードの詳細については、『Common Property Tables ユーザーガイド』を参照してください。
- 4 次のアップグレードパッケージをインストールします。
  - *UPGRADE\_System\_Resource\_to\_41*
- 5 以下のアップグレードサブパッケージをインストールします。
  - *UPGRADE\_SR\_CPU\_to\_42*
  - *UPGRADE\_SR\_DISK\_to\_43*
  - *UPGRADE\_SR\_LV\_to\_43*
  - *UPGRADE\_SR\_NI\_to\_43*
  - *UPGRADE\_SR\_PROC\_to\_42*
- 6 次のアップグレードデータパイプをインストールします。
  - *UPGRADE\_SR\_OVPA\_to\_31*または
  - *UPGRADE\_RFC1514\_to\_41*
- 7 OVPI Timer を再起動します。

Windows NT: [ 設定 ]>[ コントロールパネル ]>[ 管理ツール ]>[ サービス ] を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを入力します。

HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer start`

Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer start`

以下に、パッケージ、データパイプ、およびそれらの最新バージョンのリストを示します。

パッケージ	バージョン
SystemResource	4.2
SR_CPU	4.2
SR_DISK	4.3
SR_FS	4.2
SR_LV	4.3
SR_NetIf	4.3
SR_PROC	4.2
SR_OVPA datapipe	3.1
RFC1514 datapipe	4.1
OVPA_Collection_Datapipe	1.0

## インストール後の手順

復元の必要のあるポーリングポリシーやカスタマイズしたグループの定義を再設定します。エクスポートした設定を再インポートしないでください。古いデータパイプとインストールした新しいデータパイプに互換性がない可能性があるため、エクスポートした設定を再インポートすると、データ破壊につながる恐れがあります。また、カスタマテーブルビューを削除している場合は、再度作成する必要があります。

## パッケージの削除

**System Resource** をアンインストールすると、**System Resource** に依存するデータパイプもアンインストールされます。**System Resource Report Pack** をアンインストールするには、以下の手順を実行します。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は **root** でログインします。
- 2 **OVPI Timer** を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows NT:

- a [ コントロール パネル ]>[ 管理ツール ]>[ サービス ] を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。



- c [操作]メニューから[停止]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer stop`

- 3 Performance Insight を起動してパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの[ようこそ]ウィンドウが開きます。
- 4 画面の指示に従ってパッケージをアンインストールします。[選択の概要]ウィンドウが開いたら、[System Resource]を選択します。インストール処理が完了すると、パッケージの削除完了メッセージが表示されます。
- 5 [完了]をクリックして[管理コンソール]に戻ります。
- 6 OVPI Timer を再起動します。

Windows NT: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを入力します。

- HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer start`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer start`



## 3 新規インストール

本章では、次の項目について説明します。

- 円滑なインストールのためのガイドライン
- **System Resource** のインストール
- 配布されたレポートへのアクセス
- レポートのパフォーマンスデータの参照
- パッケージの削除

### 円滑なインストールのためのガイドライン

OVPI レポート機能には、少なくとも 2 つの主要構成要素 (レポートパック、データパイプ) があります。OVPI レポート機能には、複数のデータパイプが含まれているものがあります。データパイプのインストール時に、テーブルを作成し特定の周期で特定の種類のパフォーマンスデータを収集するように OVPI を設定します。レポートパックのインストール時に、OVPI の設定に、テーブルの作成、データパイプで収集したデータの処理、並びに、月別、位置別、またはカスタマ別などのデータの集計を指定します。

レポートパック CD-ROM には、レポートパック、データパイプ、および共有パッケージが含まれています。この CD を CD-ROM ドライブに挿入してパッケージ抽出プログラムを起動すると、インストールスクリプトは CD からすべてのパッケージを抽出して、システムの **Packages** ディレクトリにコピーします。抽出が終わると、インストールスクリプトは、パッケージマネージャを開始してスクリーンの指示に従うよう、プロンプトを表示します。パッケージマネージャを使用する前に、次のガイドラインを再確認してください。

### ソフトウェアの前提条件

**System Resource** の前提条件は次のとおりです。

- OVPI 5.2
- OVPI 5.2 に提供されているすべてのサービスパック
- **Common Property Tables 3.6**

**Common Property Tables** を使用していない場合は、パッケージマネージャで **Common Property Tables** をインストールしてください。古いバージョンの **Common Property Tables** を使用している場合は、アップグレードパッケージをインストールして最新バージョンにアップグレードします。**Common Property Tables** のアップグレードは、**System Resource Report Pack** をインストールする前に実行してください。

**System Resource** のデータを収集するデータパイプは、前提条件ではありません。データパイプのインストールは、**System Resource** のインストール時またはインストール後にも実行できます。ただし、少なくともデータパイプを 1 つインストールする必要があります。次の選択項目があります。

- **SR OVPA Datapipe**
- **RFC 1514 Datapipe** (ホストリソース MIB)
- **OVPA Collection Datapipe** (エージェント検出用)

## しきい値の設定と OpenView Operations (OVO) との統合

このパッケージのしきい値を実装するには、**System Resource** に付属のサブパッケージである **SystemResource\_Thresholds** をインストールする必要があります。しきい値サブパッケージには、カスタマイズされたしきい値が含まれています。しきい値サブパッケージをインストールすることにより、**OVPI** がデータベースのしきい値条件を監視し、いくつかの考えられる対策の中の 1 つを実施して違反条件に対応するように設定できます。

しきい値サブパッケージには、**Thresholds** モジュールが必要です。しきい値サブパッケージのインストールを選択すると、**Thresholds** モジュールはパッケージマネージャによって自動的にインストールされます。**Thresholds** モジュールはネットワークモードマネージャ (NNM) 用のデフォルト設定を含むため、**Thresholds** モジュールの設定で **OpenView Operations for Windows (OVOW)** または **OpenView Operations for UNIX (OVOU)** 宛に違反トラップを送信するように指定する必要があります。カテゴリ、重大度、および宛先パラメータの詳細については、『**Thresholds Module ユーザーガイド**』を参照してください。

## 分散環境

中央サーバーのソフトウェア要件は、サテライトサーバーのソフトウェア要件とは異なります。次のパッケージを中央サーバーにインストールします。

- システムリソース
- オプションのサブパッケージ (**SR\_CPU**、**SR\_DISK** など)
- **Common Property Tables**

次のパッケージを各サテライトサーバーにインストールします。

- システムリソース
- オプションのサブパッケージ (**SR\_CPU**、**SR\_DISK** など)
- **Common Property Tables**
- データパイプ：
  - **SysRes OVPA Datapipe** と
  - **OVPA Collection Datapipe**または
  - **SysRes RFC 1514**
- **SystemResource\_Thresholds** (オプション)
- **Thresholds Module** (オプション)

しきい値サブパッケージでは、集約データ、時間単位のデータ、あるいは集約データと時間単位のデータの両方においてのデータの例外をレポートに生成します。時間単位のデータのアラームのみ表示したい場合は、中央サーバーにしきい値サブパッケージをインストールする必要はありません。集約データにしきい値を設定したい場合は、しきい値サブパッケージを中央サーバーにインストールする必要があります。

パッケージのインストールが完了したら、中央サーバーと各サテライトサーバーを構成します。詳細は、第5章「分散システムのセットアップ」を参照してください。

## System Resource のインストール

System Resource をインストールするには、次の手順に従います。

- タスク 1: OVPI Timer を停止し、レポートパックの CD からパッケージを抽出します。
- タスク 2: System Resource、オプションのサブパッケージ、および少なくとも 1 つのデータパイプをインストールします。
- タスク 3: OVPI Timer を再起動します。

### タスク 1: OVPI Timer を停止し、レポートパックの CD からパッケージを抽出する

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は `root` でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows: 次を実行します。

- a [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [停止]を選択します。

UNIX: `root` で次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer stop`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer stop`

- 3 レポートパックの CD を CD-ROM ドライブに挿入します。

Windows: メニューが自動的に表示されます。

UNIX:

- a CD が自動的にマウントされない場合は、CD をマウントします。
- b CD の最上位ディレクトリに移動します。
- c `./setup` を実行します。

- 4 選択フィールドに `1` を入力し、[Enter] を押します。

インストールスクリプトがプログレスバーを表示します。コピーが終わると、インストールスクリプトはパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。

### タスク 2: System Resource と、少なくとも 1 つのデータパイプをインストールする

- 1 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。

- 2 [インストール] をクリックします。デフォルトのインストール先ディレクトリを受け入れるか、必要に応じて別のディレクトリを指定します。
  - 3 [次へ] をクリックします。[レポートの配布] ウィンドウが開きます。OVPI アプリケーションサーバーのユーザー名とパスワードを入力します。
  - 4 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。次の項目の横にあるチェックボックスをクリックします。
    - *System Resource 4.2*
    - *SR\_LV sub-package 4.3* (オプション)
    - *SR\_PROC sub-package 4.2* (オプション)
    - *SR\_NetIf sub-package 4.3* (オプション)
    - *SR\_CPU sub-package 4.2* (オプション)
    - *SR\_DISK sub-package 4.3* (オプション)
    - データパイプ :
      - *SysRes OVPA Datapipe 3.1*
      - *OVPA Collection Datapipe 1.0*
 または
      - *SysRes RFC1514 Datapipe 4.1*
    - *SystemResource\_Thresholds* (オプション)
- ▶ しきい値サブパッケージのインストールはオプションです。しきい値サブパッケージをインストールすると、パッケージマネージャによって **Thresholds Module** がインストールされます。
- ▶ 現在、**Common Property Tables** を使用していない場合、パッケージマネージャによって **Common Property Tables** が自動的に選択、インストールされます。
- ▶ デモパッケージはオプションです。デモパッケージは、単独でインストールすることも、その他のパッケージと同時にインストールすることもできます。
- 5 [次へ] をクリックします。[タイプの検出] ウィンドウが開きます。デフォルトを無効にし、[次へ] をクリックします。[選択の概要] ウィンドウが開きます。
  - 6 [インストール] をクリックします。[インストールプロセス] ウィンドウが開き、インストールが開始されます。インストールが完了すると、パッケージのインストール完了メッセージが表示されます。
  - 7 [完了] をクリックして [管理コンソール] に戻ります。

### タスク 3: OVPI Timer を再起動する

Windows NT: [設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス] を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを入力します。

HP-UX: `sh /sbin/init.d/ovpi_timer start`

Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer start`

## 配布されたレポートへのアクセス

このレポートパックのインストール時に、[レポートの配布] オプションを有効にしました。そのため、このパッケージのレポート（およびこのパッケージに付属のフォーム）は、この時点で OVPI アプリケーションサーバーに配布されています。OVPI アプリケーションサーバー上にレポートが配布されたら、Web 上でまたは OVPI クライアントアプリケーションを使用して、当該レポートを表示することができます。

OVPI クライアントアプリケーションには、**Report Viewer**、**Report Builder**、および **Management Console** があります。使用しているシステムにクライアントコンポーネントがインストールされていない場合は、Web ブラウザを使用してレポートを表示しなければなりません。OVPI アプリケーションクライアントの詳細については、『OVPI インストールガイド』を参照してください。[オブジェクト/プロパティの管理]ビューを使用して選択したオブジェクトに固有のレポートを表示する方法など、[管理コンソール]の詳細は、『Open View Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

## レポートのパフォーマンスデータの参照

レポートの表示に十分な量のデータが蓄積されるまでの時間は、レポートによって異なります。一番早く十分な量のデータが蓄積されるレポートは、準リアルタイムレポートです。このレポートでは、最初のデータ収集が完了するとすぐにデータを見られるようになります。

前日のパフォーマンスの分析から始まるレポートはどれも、少なくとも丸 1 日分のデータがなければ結果を見られるようにはなりません。予測データは比較的早く、2、3 日中に見られるようになります。ただし、信頼性の高い予測データを得られるのはベースラインが安定してからです。これには数週間かかります。

## パッケージの削除

System Resource を削除すると、System Resource に依存するデータパイプもすべて削除されます。OVPI から System Resources をアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 システムにログインします。UNIX システムの場合は **root** でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [停止] を選択します。

UNIX の場合は、**root** でログインして次のいずれかを実行します。

- HP-UX: **sh /sbin/init.d/ovpi\_timer stop**
- Sun: **sh /etc/init.d/ovpi\_timer stop**

- 3 Performance Insight を起動してパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ようこそ] ウィンドウが開きます。

- 4 画面の指示に従ってパッケージをアンインストールします。[ 選択の概要 ] ウィンドウが開いたら、[System Resource] を選択します。インストール処理が完了すると、パッケージの削除完了メッセージが表示されます。
- 5 [完了] をクリックして [管理コンソール] に戻ります。
- 6 OVPI Timer を再起動します。

Windows NT: [ 設定 ]>[ コントロールパネル ]>[ 管理ツール ]>[ サービス ] を選択します。

UNIX: root で次のいずれかを入力します。

```
HP-UX: sh /sbin/init.d/ovpi_timer start
```

```
Sun: sh /etc/init.d/ovpi_timer start
```



## 4 データ収集

本章では、次の項目について説明します。

- SysRes RFC 1514 Datapipe 4.0
- OVPA Collection Datapipe 1.0
- SysRes OVPA Datapipe 3.0
- サブパッケージで実行する収集

### SysRes RFC 1514 Datapipe

SysRes RFC 1514 Datapipe では、Host Resources MIB から次のデータの収集が行われます。

- CPU 使用率
- メモリ使用率
- ページアウト数
- 実行キューの長さ
- スワップ使用率

### OVPA Collection Datapipe

OVPA Collection Datapipe は、以下のタスクを実行します。

- OVPA または EPC パフォーマンスエージェントを検出する
- `trendtimer.sched` ファイルに、`pa_collect` ステートメントを挿入する
- 収集処理で使用する OVPA タイプのグループを読み込む

検出プロセスは 1 日に 1 回実施します。OVPA\_Collection\_Daily.pro ファイルに記載された命令に従って、検出プロセスが `ksi_managed_node` テーブル内の全てのノードのチェックを試行します。SNMP 検出では SNMP ポーリング可能なデバイスしか検出できないため、[ノードの作成] ツールを使用して OVPA または EPC システムを追加する必要が生じる場合があります。

検出プロセスが開始すると、DPIPE\_HOME/data ディレクトリの `pa_discovery.data` ファイルへの書き込みが行われます。`pa_discovery.data` ファイルには、検出プロセスで見つかったシステムが記載されます。検出プロセスが終了すると、`ee_collect` が `pa_discovery.data` ファイルを OVPI にロードします。データは `K_padataources` テーブルに入力されます。

# SysRes OVPA Datapipe

SysRes OVPA Datapipe は、以下のクラスからメトリックデータを収集します。

- グローバル
- ファイルシステム
- アプリケーション
- Transaction
- Configuration

設定クラス内のメトリックは 1 日に 1 回収集されます。その他のクラスの場合は 1 時間ごとに収集されます。SysRes OVPA Datapipe によってシステムリソース用に収集されるメトリックは、以下の 2 つのエージェントから発生します。

- HP OpenView Performance Agent (OVPA)
- Embedded Performance Component of OpenView Operations (OVOA)

OVOA (別名 EPC) は、OVOU 7.0 および OVOW 7.0 と共に出荷されます。OVOU 7.0 (またはそれ以降) または OVOW 7.0 (またはそれ以降) を使用している場合、SysRes OVPA Datapipe は EPC からメトリックを収集します。旧バージョンの OVO を使用している場合、SysRes OVPA Datapipe は OVPA からメトリックを収集します。

OVPA によって収集されたメトリックは、EPC よって収集されたメトリックと異なります。メトリックの違いの詳細については、『Metrics for HP OV Performance Agent and Operations Agent』を参照してください。このドキュメントは、製品マニュアルウェブサイトからダウンロードできます。Operations for Windows と Operations for UNIX の 2 箇所のいずれからも見つけることができます。

テーブル、メトリック、およびマッピングに関する情報を含めた SysRes OVPA Datapipe の詳細については、『System Resource OVPA Datapipe ユーザーガイド』を参照してください。

## サブパッケージにより実行される収集

System Resource Report Pack と共に、以下のサブパッケージをインストールすることができます。

- CPU
- プロセス
- ディスク
- 論理ボリューム
- ネットワークインタフェース

各サブパッケージは、データ収集機能を内蔵します。各収集プロセスは 1 時間に 1 回実行されます。また、各収集プロセスは履歴様式の収集です。システムに対してポーリングが実行されると、データパイプは、独自の `ta_period` を有する列を複数返します。収集の初回実行時は、前日の午前 0 時からの全ての列が返されます。その後、1 回の収集では未収集のデータのみが返されます。

未収集のデータに対するその後の収集の制限は、履歴プロパティテーブルを使用して実現されます。このテーブルの `lastPoll` 列には、`ta_suptime` 値が入力されています。最初の収集以降の各収集では、タイムスタンプ値が `lastPoll` の値よりも大きいデータを検索します。

## CPU サブパッケージ

CPU サブパッケージは、CPU クラスからデータを収集します。OVPA タイプグループ内の全てのシステムが、CPU 収集のために収集されます。

### データテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
未処理テーブル	xSR_OVPA_CPU
レートテーブル	RSR_OVPA_CPU
プロパティテーブル	K_OVPA_CPU
Teel ファイル	SysResOVPA_CPU.teel

### プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_CPU
Teel ファイル	prop_OVPA_CPU.teel

### 履歴プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_CPU_History
履歴プロパティテーブル	K_OVPA_CPU_History
履歴 Teel ファイル	prop_OVPA_CPU_history.teel

### 収集した CPU メトリック

収集テーブルは RSR\_OVPA\_CPU です。サポートされているメトリックはプラットフォーム間で異なり、OVPA から EPC エージェントまで広範囲に及びます。

メトリック	説明
BYCPU_ID	CPU ID
BYCPU_CPU_SYS_MODE_UTIL	CPU が System Mode だった時間の割合 (%)。
BYCPU_CPU_USER_MODE_UTIL	CPU が User Mode だった時間の割合 (%)。
BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL	CPU 使用率 (%)。
BYCPU_STATE	CPU の状態
BYCPU_INTERRUPT_RATE	デバイス中断の平均回数。
BYCPU_CSWITCH_RATE	状況切り替え率

## 毎日の処理

SR\_Daily\_CPU.pro ファイルは、毎朝午前 2 時に起動されます。毎日の処理は SD\_SR\_CPU.sum ファイルを実行することです。

## 時間ごとの処理

SR\_Hourly\_CPU.pro ファイルは 1 時間ごとに呼び出されます。

時間ごとの処理では、新規システムの管理、CPU プロパティテーブルのアップデート、およびデータパイププレートテーブルから System Resource CPU Report Pack ベーステーブルへのデータマッピングを行います。

新規システムが見つかった場合、サマリーに記載する前に K\_Node に追加する必要があります。これは、ストアドプロシージャ ppSR\_OVPACPU\_SetIDs を使用して実行されます。ストアドプロシージャは、SQL スクリプト execute\_SR\_OVPACPU\_SetIDs.sql を使用して起動されます。ストアドプロシージャは K\_Node に新規システムを実装し、データパイププロパティテーブルの node\_fk 列に K\_Node から当該システムの dsi\_key\_id 値を入力します。

CPU アップデートは、K\_System\_CPU プロパティテーブルに CPU 状態を入力します。

## RSR\_OVPA\_CPU と SH\_SR\_CPU のマッピング

目的：RSR\_OVPA\_CPU から System Resource CPU ベーステーブル SH\_SR\_CPU に対してシステムメトリックのマッピングを行うこと

ファイル：SH_SR_CPU.sum ソーステーブル：RSR_OVPA_CPU 宛先テーブル：SH_SR_CPU 使用する変数：node_fk 使用する変数：CPUid 使用する変数：hour  列：CPUSystemMode=BYCPU_CPU_SYS_MODE_UTIL:avg 列：CPUUserMode=BYCPU_CPU_USER_MODE_UTIL:avg 列：CPUUtil=BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL:avg 列：CSRate=BYCPU_CSWITCH_RATE:avg 列：IntRate=BYCPU_INTERRUPT_RATE:avg		
ソースメトリック	宛先メトリック	サマリータイプ
BYCPU_CPU_SYS_MODE_UTIL	AVGCPUSystemMode	avg
BYCPU_CPU_USER_MODE_UTIL	AVGCPUUserMode	avg
BYCPU_CPU_TOTAL_UTIL	AVGCPUUtil	avg
BYCPU_CSWITCH_RATE	AVGCSRate	avg
BYCPU_INTERRUPT_RATE	AVGIntRate	avg

## 論理ボリュームサブパッケージ

論理ボリュームサブパッケージは、論理ボリュームクラスからデータを収集します。OVPA タイプグループ内の全てのシステムが、論理ボリューム収集のために収集されます。

### データテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
未処理テーブル	xSR_OVPA_LV
レートテーブル	RSR_OVPA_LV
プロパティテーブル	K_OVPA_LogicalVolume
Teel ファイル	SysResOVPA_LogicalVolume.teel

### プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_LogicalVolume
Teel ファイル	prop_OVPA_LogicalVolume.teel

### 履歴プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_LV_History
履歴プロパティテーブル	K_OVPA_LV_History
履歴 Teel ファイル	prop_SysResOVPA_LV_history.teel

### 収集された論理ボリュームメトリック

収集テーブルは RSR\_OVPA\_LogicalVolume です。サポートされるメトリックはプラットフォーム間で異なり、OVPA エージェント上でのみサポートされます。

メトリック	説明
LV_DIRNAME	HP OS 上の論理ボリュームの絶対パス名。
LV_READ_RATE	期間中の当該論理ボリュームに対する 1 秒当たりの物理的読み出しの回数。
LV_WRITE_RATE	期間中の当該論理ボリュームに対する 1 秒当たりの物理的書き込みの回数。
LV_SPACE_UTIL	期間中に使用される論理ボリュームファイルシステムスペースの割合。

## 毎日の処理

SR\_Daily\_LogicalVolume.pro ファイルは、毎朝午前 2 時に起動されます。毎日の処理は SD\_SR\_LogicalVolume.sum ファイルを実行することです。

## 時間ごとの処理

SR\_Hourly\_LogicalVolume.pro ファイルは 1 時間ごとに呼び出されます。

時間ごとの処理では、新規システムの管理と、データパイププレートテーブルから System Resource Logical Volume Report Pack ベーステーブルへのデータマッピングを行います。

新規システムが見つかった場合、サマリーに記載する前に K\_Node に追加する必要があります。これは、ストアドプロシージャ ppSR\_OVPALogicalVolume\_SetIDs を使用して実行されます。ストアドプロシージャは、SQL スクリプト eexecute\_SR\_OVPALogicalVolume\_SetIDs.sql を使用して起動されます。ストアドプロシージャは K\_Node に新規システムを実装し、データパイププロパティテーブルの node\_fk 列に K\_Node から当該システムの dsi\_key\_id 値を入力します。

## RSR\_OVPA\_LogicalVolume から SH\_SR\_LogicalVolume へのマッピング

目的: メトリックを RSR\_OVPA\_LogicalVolume から LogicalVolume のベーステーブル SH\_SR\_LogicalVolume にマッピングします。

ファイル: SH_SR_LogicalVolume.sum ソーステーブル: RSRV_OVPA_LogicalVolume 宛先テーブル: SH_SR_LogicalVolume 使用する変数: node_fk 使用する変数: LV_DIRNAME 使用する変数: hour		
ソースメトリック	宛先メトリック	サマリータイプ
LV_READ_RATE	AVGReadRate	avg
LV_WRITE_RATE	AVGWriteRate	avg
LV_SPACE_UTIL	AVGSpaceUtil	avg

## ネットワークインタフェースサブパッケージ

ネットワークインタフェースサブパッケージは、ネットワークインタフェースクラスからデータを収集します。OVPA タイプグループ内の全てのシステムが、ネットワークインタフェース収集のために収集されます。

## データテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
未処理テーブル	xSR_OVPA_NetIf
レートテーブル	RSR_OVPA_NetIf
プロパティテーブル	K_OVPA_NetInterface
Teel ファイル	SysResOVPA_NetInterface.teel

## プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_NetInterface
Teel ファイル	prop_OVPA_NetInterface.teel

## 履歴プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_NetInterface_History
履歴プロパティテーブル	K_OVPA_NETIF_History
履歴 Teel ファイル	prop_SysResOVPA_NetIf_history.teel

## 収集されたネットワークインタフェースメトリック

収集テーブルは RSR\_OVPA\_NetIf です。サポートされているメトリックはプラットフォーム間、および OVPA から EPC までのエージェント間で異なります。

メトリック	説明
BYNETIF_COLLISION_RATE	ネットワークインタフェースの名前。
BYNETIF_IN_PACKET_RATE	期間中、ネットワークインタフェース上での 1 秒当たりの物理的衝突の回数。
BYNETIF_OUT_PACKET_RATE	期間中、ネットワークインタフェース経由で受信に成功した 1 秒当たりの物理パケットの数。
BYNETIF_IN_BYTE_RATE	期間中、ネットワークインタフェース経由で送信に成功した 1 秒当たりの物理パケットの数。
BYNETIF_OUT_BYTE_RATE	期間中、当該インタフェース経由でネットワークが受信した 1 秒当たりの KB 数。

メトリック	説明
BYNETIF_ERROR_RATE	期間中、当該インタフェース経由でネットワークが送信した 1 秒当たりの KB 数。
BYNETIF_NET_SPEED	期間中、ネットワークインタフェース上での 1 秒当たりの物理的エラーの回数。
BYNETIF_COLLISION_RATE	当該インタフェースの速度。

## 毎日の処理

SR\_Daily\_NetInterface.pro ファイルは、毎朝午前 2 時に起動されます。毎日の処理は SD\_SR\_NetInterface.sum ファイルを実行することです。

## 時間ごとの処理

SR\_Hourly\_NetInterface.pro ファイルは 1 時間ごとに呼び出されます。

時間ごとの処理では、新規システムの管理と、データパイププレートテーブルから **System Resource Network Interface Report Pack** ベーステーブルへのデータマッピングを行います。

新規システムが見つかった場合、サマリーに記載する前に **K\_Node** に追加する必要があります。これは、ストアドプロシージャ ppSR\_OVPANetIf\_SetIDs を使用して実行されます。ストアドプロシージャは、SQL スクリプト execute\_SR\_OVPANetIf\_SetIDs.sql を使用して起動されます。ストアドプロシージャは **K\_Node** に新規システムを実装し、データパイププロパティテーブルの **node\_fk** 列に **K\_Node** から当該システムの **dsi\_key\_id** 値を入力します。



## RSR\_OVPA\_NetIf から SH\_SR\_NetInterface へのマッピング

目的: RSR\_OVPA\_NetIf からネットワークインタフェースベーステーブル SH\_SR\_NetInterface に対してシステムメトリックのマッピングを行います。

ファイル: SH_SR_NetInterface.sum ソーステーブル: RSR_OVPA_NetIf 宛先テーブル: SH_SR_NetInterface 使用する変数: node_fk 使用する変数: prop_netif_name 使用する変数: hour  列: CollisionRate=BYNETIF_COLLISION_RATE:avg 列: InPackets=BYNETIF_IN_PACKET_RATE:avg 列: OutPackets=BYNETIF_OUT_PACKET_RATE:avg 列: InBytes=BYNETIF_IN_BYTE_RATE:avg 列: OutBytes=BYNETIF_OUT_BYTE_RATE:avg 列: ErrorRate=BYNETIF_ERROR_RATE:avg 列: NetSpeed=BYNETIF_NET_SPEED:avg		
ソースメトリック	宛先メトリック	サマリータイプ
BYNETIF_COLLISION_RATE	AVGCollisionRate	avg
BYNETIF_IN_PACKET_RATE	AVGInPackets	avg
BYNETIF_OUT_PACKET_RATE	AVGOutPackets	avg
BYNETIF_IN_BYTE_RATE	AVGInBytes	avg
BYNETIF_OUT_BYTE_RATE	AVGOutBytes	avg
BYNETIF_ERROR_RATE	AVGErrorRate	avg
BYNETIF_NET_SPEED	AVGNetSpeed	avg

## ディスクサブパッケージ

ディスクサブパッケージは、ディスククラスからデータを収集します。OVPA タイプグループ内の全てのシステムが、ディスク収集のために収集されます。

## データテーブルマトリクス。

テーブル/ファイル	名前
未処理テーブル	xSR_OVPA_Disk
レートテーブル	RSR_OVPA_Disk
プロパティテーブル	K_OVPA_Disk
Teel ファイル	SysResOVPA_Disk.teel

## プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_Disk
Teel ファイル	prop_OVPA_Disk.teel

## 履歴プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_Disk
履歴プロパティテーブル	K_OVPA_DISK_History
履歴 Teel ファイル	prop_SysResOVPA_Disk_history.teel

## 収集されたディスクメトリック

収集テーブルは **RSR\_OVPA\_Disk** です。サポートされているメトリックはプラットフォーム間、および OVPA から EPC までのエージェント間で異なります。

メトリック	説明
BYDSK_DEVNAME	特定のディスクを識別する名前。
BYDSK_DIRNAME	当該ディスクにマウントされたファイルシステムディレクトリの名前。複数ある場合は複数の FS を表示する。
BYDSK_AVG_SERVICE_TIME	期間中、当該ディスクが各ディスク要求の処理に要する平均時間（ミリ秒単位）。
BYDSK_PHYS_IO_RATE	期間中、当該ディスクデバイスに対する 1 秒当たりの物理的 IO 要求の平均数。
BYDSK_UTIL	当該デバイスの使用率、または要求への対応でビジー状態の時間のパーセント値。
BYDSK_FS_READ_RATE	期間中、当該ディスクデバイスからの 1 秒当たりの物理的ファイルシステム読み出しの回数。

メトリック	説明
BYDSK_FS_WRITE_RATE	期間中、当該ディスクデバイスからの 1 秒当たりの物理的ファイルシステム読み出しの回数。
BYDSK_VM_IO_RATE	期間中、当該ディスクデバイスに対する 1 秒当たりの仮想メモリ IO の回数。
BYDSK_RAW_READ_RATE	期間中、当該ディスクデバイスからの 1 秒当たりの生データ読み出しの回数。
BYDSK_RAW_WRITE_RATE	期間中、当該ディスクデバイスへの 1 秒当たりの生データ書き込みの回数。
BYDSK_SYSTEM_IO_RATE	期間中、当該ディスクデバイスに対する 1 秒当たりの物理的システム読み出しまたは書き込みの回数。

## 毎日の処理

SR\_Daily\_Disk.pro ファイルは、毎朝午前 2 時に起動されます。毎日の処理は SD\_SR\_Disk.sum ファイルを実行することです。

## 時間ごとの処理

SR\_Hourly\_Disk.pro ファイルは 1 時間ごとに呼び出されます。時間ごとの処理では、新規システムの管理と、データパイプレートテーブルからディスクサブパッケージベーステーブルへのデータマッピングを行います。

新規システムが見つかった場合、サマリーに記載する前に **K\_Node** に追加する必要があります。これは、ストアドプロシージャ **ppSR\_OVPADisk\_SetIDs** を使用して実行されます。ストアドプロシージャは、SQL スクリプト **execute\_SR\_OVPADisk\_SetIDs.sql** を使用して起動されます。ストアドプロシージャは **K\_Node** に新規システムを実装し、データパイプロパティテーブルの **node\_fk** 列に **K\_Node** から当該システムの **dsi\_key\_id** 値を入力します。

## RSR\_OVPA\_Disk から SH\_SR\_Disk へのマッピング

目的: RSR\_OVPA\_Disk から SH\_SR\_Disk ベーステーブルにメトリックをマッピングします。

ファイル: SH_SR_Disk.sum ソーステーブル: RSR_OVPA_Disk 宛先テーブル: SH_SR_Disk 使用する変数: node_fk 使用する変数: prop_disk_name 使用する変数: hour  列: ServiceTime=BYDSK_AVG_SERVICE_TIME:avg 列: DiskUtil=BYDSK_UTIL:avg 列: PhysicalIORate=BYDSK_PHYS_IO_RATE:avg 列: FSReadRate=BYDSK_FS_READ_RATE:avg 列: FSWriteRate=BYDSK_FS_WRITE_RATE:avg 列: RawReadRate=BYDSK_RAW_READ_RATE:avg 列: RawWriteRate=BYDSK_RAW_WRITE_RATE:avg 列: c=BYDSK_VM_IO_RATE:avg 列: SystemIORate=BYDSK_SYSTEM_IO_RATE:avg		
ソースメトリック	宛先メトリック	サマリータイプ
BYDSK_AVG_SERVICE_TIME	AVGServiceTime	avg
BYDSK_UTIL	AVGDiskUtil	avg
BYDSK_PHYS_IO_RATE	AVGPhysicalIORate	avg
BYDSK_FS_READ_RATE	AVGFSReadRate	avg
BYDSK_FS_WRITE_RATE	AVG FSWriteRate	avg
BYDSK_RAW_READ_RATE	AVGRawReadRate	avg
BYDSK_RAW_WRITE_RATE	AVGRawWriteRate	avg
BYDSK_VM_IO_RATE	AVGVMIORate	avg
BYDSK_SYSTEM_IO_RATE	AVGSystemIORate	avg

## プロセスサブパッケージ

プロセスサブパッケージは、時間ごとの収集を実行します。プロセス収集では、OVPA タイプグループ内の全てのシステムを収集します。

## データテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
未処理テーブル	xSR_OVPA_process
レートテーブル	RSR_OVPA_process
プロパティテーブル	K_ProcOVPA_proc
Teel ファイル	SysResOVPA_Process.teel

## プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_ProcOVPA_proc
Teel ファイル	prop_ProcOVPA_proc.teel

## 履歴プロパティテーブルマトリクス

テーブル/ファイル	名前
プロパティテーブル	K_OVPA_proc
履歴プロパティテーブル	K_OVPA_PROC_HISTORY
履歴 Teel ファイル	prop_ProcOVPA_proc_history.teel

## 収集されたプロセスメトリック

収集テーブルは RSR\_OVPA\_process です。サポートされるメトリックはプラットフォーム間で異なり、OVPA エージェントでのみサポートされます。

メトリック	説明
PROC_CPU_TOTAL_TIME	総 CPU 消費時間 (秒)
PROC_PROC_NAME	プロセス名。
PROC_CPU_TOTAL_UTIL	CPU 消費時間 (%)。
PROC_THREAD_COUNT	スレッドの総数。
PROC_MEM_VIRT	使用される仮想メモリの合計。

## 毎日の処理

SR\_Daily\_Process.pro ファイルは、毎朝午前 2 時に起動されます。毎日の処理は SD\_SR\_proc.sum ファイルを実行することです。

## 時間ごとの処理

SR\_Hourly\_Process.pro ファイルは 1 時間ごとに呼び出されます。

時間ごとの処理では、新規システムの管理と、データパイププレートテーブルから **System Resource Disk Report Pack** ベーステーブルへのデータマッピングを行います。

新規システムが見つかった場合、サマリーに記載する前に **K\_Node** に追加する必要があります。これは、ストアドプロシージャ **ppSR\_OVPAProc\_SetIDs** を使用して実行されます。ストアドプロシージャは、**SQL** スクリプト **execute\_SR\_OVPAProc\_SetIDs.sql** を使用して起動されます。ストアドプロシージャは **K\_Node** に新規システムを実装し、データパイププロパティテーブルの **node\_fk** 列に **K\_Node** から当該システムの **dsi\_key\_id** 値を入力します。

## RSR\_OVPA\_process から SH\_SR\_Process へのマッピング

目的: **RSR\_OVPA\_process** から **SH\_SR\_Process** ベーステーブルにメトリックをマッピングします。

ファイル: SH_SR_proc.sum ソーステーブル: xSR_OVPA_process 宛先テーブル: SH_SR_Process 使用する変数: node_fk 使用する変数: Process_Name 使用する変数: hour  列: CPUTime=PROC_CPU_TOTAL_TIME:tot 列: CPUUtil=PROC_CPU_TOTAL_UTIL:avg 列: ThreadCount=PROC_THREAD_COUNT:tot 列: VirtualMem=PROC_MEM_VIRT:tot		
ソースメトリック	宛先メトリック	サマリータイプ
PROC_CPU_TOTAL_TIME	TOTCPUTime	tot
PROC_CPU_TOTAL_UTIL	AVGCPUUtil	avg
PROC_THREAD_COUNT	TOTThreadCount	tot
PROC_MEM_VIRT	TOTVirtualMem	tot

## 5 分散システムのセットアップ

本章では、次の項目について説明します。

- 複数サーバーへのシステムリソースのインストール
- 中央サーバーの設定
- サテライトサーバーの設定
- システムクロック

### 複数サーバーへのシステムリソースのインストール

システムリソースを複数のサーバーにまたがる 1 つの分散システムとして実行する場合は、各サーバーの設定を行う必要があります。サーバーの設定に先立ち、必要なものが全て必要な場所にインストールされていることを確認します。以下のテーブルに示されるように、データパイプはサテライトサーバーに属しますが、それ以外のサーバーごとのパッケージインストールは同じです。

中央サーバー	サテライトサーバー
System Resource 4.2	System Resource 4.2
SystemResource_Thresholds	SystemResource_Thresholds
Thresholds Module 5.1	Thresholds Module 5.1
Common Property Tables 3.6	Common Property Tables 3.6
	SysRes RFC1514 Datapipe 4.1
	SysRes OVPA Datapipe 3.1
	OVPA Collection Datapipe 1.0

オプションのしきい値サブパッケージをインストールするかどうかは、しきい値をどのように機能させるかによって決まります。時間単位のデータにしきい値を設定する場合は、しきい値サブパッケージをサテライトサーバーにインストールします。集約データにしきい値を設定する場合は、しきい値サブパッケージを中央サーバーにインストールします。

### 中央サーバーの設定

中央サーバーを設定するには、次のタスクを行います。

- タスク 1: データベースロールを設定してサテライトサーバーを登録する
- タスク 2: LIR を有効化する
- タスク 3: LIR マッピングを追加する

- タスク 4: 自動生成されたコピーポリシーを検証する
- タスク 5: 割合テーブルの LIR マッピングを削除する
- タスク 6: SR\_Hourly\_Reporting.pro ファイルを変更する

#### タスク 1: データベースロールを設定してサテライトサーバーを登録する

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [システム] アイコンをクリックします。
- 3 [OVPI データベース] フォルダーに移動してデータベースシステムを選択します。
- 4 [データベースのプロパティ] をクリックします。
- 5 [データベースロール] リストから、サテライトサーバーロールを選択します。
- 6 サテライトサーバーロールの設定に必要な情報を入力します。



新規データベースリファレンスを追加するには、システムおよびネットワーク管理アプリケーションの [データベースリファレンスの追加ウィザード] を使用できます。

#### タスク 2: LIR を有効化する

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [システム] アイコンをクリックします。
- 3 [OVPI データベース] フォルダーに移動して中央サーバーを選択します。
- 4 [LIR 設定] をクリックします。
- 5 [LIR の有効化] チェックボックスをオンにします。

#### タスク 3: LIR マッピングを追加する

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [システム] アイコンをクリックします。
- 3 [OVPI データベース] フォルダーに移動して中央サーバーを選択します。
- 4 [LIR 設定] をクリックします。
- 5 [マッピングの追加] をクリックします。
- 6 [サテライトサーバーの選択] リストから、マッピングを追加するサテライトサーバーを選択します。
- 7 [カテゴリ] データテーブルオプションを選択します。
- 8 ドロップダウンリストから [システムリソース] を選択します。
- 9 **rate** データタイプを選択します。
- 10 [リストに追加] をクリックします。
- 11 以下の各 SR サブパッケージに対して、ステップ 8 ~ 10 を繰り返します。
  - 論理ボリューム
  - プロセス
  - ネットワークインタフェース



- CPU
  - ディスク
- 12 複数のサテライトサーバーがある場合、[リストに追加]をクリックして各サーバーに対して手順 6 から手順 10 を繰り返します。
- 13 [OK] をクリックします。
- 14 [適用] をクリックします。

時間別データおよび追加した各 LIR マッピングに対して、コピーポリシーが自動生成されます。LIR マッピングの追加時に選択したデータタイプ（上記のステップ 9）が、コピーされるデータのタイプ（生成されたコピーポリシーに定義）を決定します。コピーされるデータのタイプ（生成されたコピーポリシーに定義）は、LIR マッピングで選択したデータタイプよりも上位のサマリーレベルです。例えば、時間別データタイプを選択した場合、日別データのコピーポリシーを生成します。

#### タスク 4: 自動生成されたコピーポリシーを検証する

下記のテーブルに対してコピーポリシーが生成されたこと、およびコピータイプが正しく設定（プロパティとデータ）されたことを確認します。

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [Copy Policy] アイコンをクリックし、Copy Policy Manager を起動します。
- 3 以下のテーブルを探し、コピータイプが [プロパティとデータ] に設定されていることを確認します。

##### **SystemResource.ap**

- SH\_SR\_SysXcep
- SH\_SR\_SysVolXcep
- SH\_SR\_SysUp
- SH\_AppOVPA\_SysApp
- SRTran\_Transaction
- SR\_SR\_FileSystem
- SR\_SR\_Kernel

##### **SysRes OVPA CPU**

- SH\_SR\_CPU

##### **SysRes OVPA ディスク**

- SH\_SR\_Disk

##### **SysRes OVPA 論理ボリューム**

- SH\_SR\_Logicalvolume

##### **SysRes OVPA Net インタフェース**

- SH\_SR\_Netinterface

##### **SysRes OVPA プロセス**

- SH\_SR\_Process

テーブルのコピーポリシーが生成されていない場合は、次の手順を実行します。

- 1 **[新規コピーポリシー]** アイコンをクリックするか、コピーポリシーマネージャから **[ファイル]>[新規コピーポリシー]** と選択します。コピーポリシーウィザードが開きます。
- 2 **[次へ]** をクリックします。[Satellite Server and Copy Policy Selection] ページが表示されます。
- 3 プルダウンリストからサテライトサーバーを選択します。このサテライトサーバーからデータが中央サーバーにコピーされます。
- 4 **[単独テーブル]** をクリックして、プルダウンリストから目的のテーブルを選択します。
- 5 **[次へ]** をクリックします。[Copy Type Selection Page] ページが表示されます。
- 6 **[プロパティとデータ]** を選択します。
- 7 **[次へ]** をクリックします。[サマリー] ページが表示されます。
- 8 概要ウィンドウの情報を確認します。情報が正しくない場合は、**[戻る]** をクリックして変更することができます。
- 9 **[完了]** をクリックします。
- 10 欠落している全てのテーブルについて、**手順 4～手順 9** を繰り返します。

コピータイプが **[プロパティとデータ]** に設定されていない場合は、以下の手順を実行します。

- 1 コピーポリシーをダブルクリックします。
- 2 **[プロパティとデータ]** コピータイプを選択します。
- 3 **[OK]** をクリックします。

#### タスク 5: 割合テーブルの LIR マッピングを削除する

SRTran\_Transaction、SR\_SR\_FileSystem、および SR\_SR\_Kernel に関する LIR マッピングを削除します（データは中央サーバーにコピーされる）。

- 1 **[管理コンソール]** を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの **[システム]** アイコンをクリックします。
- 3 **[OVPI データベース]** フォルダーに移動して中央サーバーを選択します。
- 4 **[LIR 設定]** をクリックします。
- 5 K\_SR\_FileSystem と K\_SR\_System の **[Rate]** チェックボックスの選択を解除します。
- 6 **[適用]** をクリックします。

#### タスク 6: 以下の 6 個のプロセスファイルを書き換える

- SR\_Hourly\_Reporting.pro ファイル
- SR\_Hourly\_CPU.pro
- SR\_Hourly\_Disk.pro
- SR\_Hourly\_Logicalvolume.pro
- SR\_Hourly\_Netinterface.pro
- SR\_Hourly\_volume.pro

6つのプロセスファイルはすべて次の場所にあります。

```
{DPIPE_HOME}/scripts/
```

{DPIPE\_HOME} は OVPI がインストールされるディレクトリです。

各ファイルで、次の行を見つけてコメントアウトします。

```
begin:block 1 wait
end:
```

## サテライトサーバーの設定

次の手順に従って各サテライトサーバーを設定します。

### 1 trendtimer.sched ファイルを変更します。

trendtimer.sched ファイルは {DPIPE\_HOME}/lib/ ディレクトリにあります。ここで、{DPIPE\_HOME} は OVPI がインストールされるディレクトリです。

以下を変更します。

- 次の行を見つけてコメントアウトします。

```
24:00+2:00 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f
{DPIPE_HOME}/scripts/SR_Server_Reporting.pro
```
- 次の行を見つけて変更します（毎日の処理時刻を変更）。

```
1:00+40 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f
{DPIPE_HOME}/scripts/SR_Hourly_Reporting.pro
```

を以下のように変更します。

```
1:00+25 - - {DPIPE_HOME}/bin/trend_proc -f
{DPIPE_HOME}/scripts/SR_Hourly_Reporting.pro
```

### 2 以下のプロセスファイルを書き換えます。

- SR\_Hourly\_Reporting.pro ファイル
- SR\_Hourly\_CPU.pro
- SR\_Hourly\_Disk.pro
- SR\_Hourly\_Logicalvolume.pro
- SR\_Hourly\_Netinterface.pro
- SR\_Hourly\_volume.pro

上記のファイルは次の場所にあります。

```
{DPIPE_HOME}/scripts/
```

{DPIPE\_HOME} は OVPI がインストールされるディレクトリです。

以下を変更します。

- 次の行を見つけてコメントアウトします。

```
begin:block2 wait
end:block2
```

- 次の行を見つけてコメントを外します。

```
begin:block3 wait  
end:block3
```

- 3 各システムが1つのサテライトサーバーのみによってポーリングされるように、データパイプのポーリングポリシーを設定します。
- 4 サテライトサーバーに2つ以上のポーラーがある場合、各ポーラーに対して個別のポーリングポリシーを作成し、ビューとタイプを使用してデバイスを区別します。
- 5 リモートポーラーを使用している場合、複数のポーラー間でポーリングが重複していないこと、サテライトとポーラーの間でポーリングが重複していないことを確認します。

## システムクロック

各サテライトサーバーのシステムクロックが中央サーバーのシステムクロックに同期されていることを確認してください。

## 6 データのアーカイブ

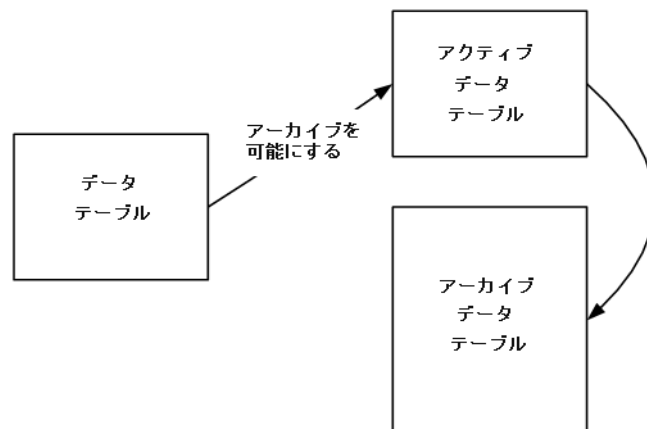
本章では、次の項目について説明します。

- データのアーカイブ
- 現在の保管プロファイルリストの表示
- アーカイブの有効化
- カスタム保持プロファイルの作成
- アーカイブデータレポートの表示

### データのアーカイブ

データのアーカイブ機能を使用すると、OVPI のパフォーマンスの要約とレポートに影響を与えずに、大量のデータをアーカイブテーブルに保存することができます。

デフォルトでは、アーカイブ機能は無効になっています。アーカイブ機能を有効にすると、データテーブルがアクティブなデータテーブルになります。データは、アーカイブテーブルに移行されるまでの指定された期間（保管プロファイルに定義）、アクティブなテーブルに保管されます。アクティブなテーブルは、唯一のアーカイブテーブルにデータをアーカイブできます。



▶ アクティブなテーブルからのデータとアーカイブテーブルからのデータは、同じレポートには記載されません。

レポートパックのインストール時、各データテーブルに対して（TEEL ファイルからの情報を使用して）保管プロファイルが作成されました。保管プロファイルには、保管プロファイルの名前と説明、アクティブなデータテーブルにデータが保存される期間（日数）、アーカイブテーブルにデータが保存される期間（日数）、およびアーカイブが有効か否か、が定義されています。データテーブルの保管プロファイルを変更することにより、当該データテーブルのアーカイブを有効にできます。1つの保管プロファイルを1つ以上のデータテーブルに割り当てることができますが、1つのデータテーブルには1つの保管プロファイルしか割り当てられません。

データアーカイブの詳細については、『HP OpenView Performance Insight 管理ガイド』を参照してください。

## 現在の保管プロファイルリストの表示

全ての保管プロファイルを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 [管理コンソール] を起動します (Administrator 権限でログオン)。
- 2 ナビゲーションペインの [テーブル] アイコンをクリックして、[テーブルマネージャ] ナビゲーションペインを表示します。
- 3 [ファイル]>[保管プロファイル]>[保管プロファイルの管理] の順に選択します。[保管プロファイルの管理] ダイアログに、現在の保管プロファイルのリストが表示されます。[保管プロファイルの管理] ダイアログでは、保管プロファイルの作成、変更、および削除を行うことができます。



製品のインストール時に作成されたデフォルトの保管プロファイルを変更したり削除したりすることはできません。また使用中のプロファイルを削除することもできません。

## アーカイブの有効化

アーカイブを有効にするには、データテーブルを選択してその保管プロファイルを変更するか、任意の保管プロファイルを変更します。あるテーブルについて、[テーブルマネージャ] ナビゲーションペインの [アーカイブを有効にする] チェックボックスが選択されている場合は、アーカイブ機能が有効になっています。

## 変更するデータテーブルの選択

選択したテーブルの保管プロファイルを変更するには、以下の手順を実行します。

- 1 [管理コンソール] から、ナビゲーションペインの [テーブル] アイコンをクリックして、[テーブルマネージャ] ナビゲーションペインを表示します。
- 2 [テーブルマネージャ] ナビゲーションペインで、任意のテーブルをダブルクリックします。[データテーブルの詳細] ダイアログが表示されます。
- 3 [保管プロファイル] タブを選択します。
- 4 ダイアログのフィールドを変更します。
- 5 [アーカイブを有効にする] チェックボックスを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

## 保管プロファイルの変更

保管テーブルを変更するには、以下の手順を実行します。



レポートパックのインストール時に作成されたデフォルトの保管プロファイルを変更することはできません。

- 1 [管理コンソール] から、ナビゲーションペインの [テーブル] アイコンをクリックします。
- 2 [ファイル]>[保管プロファイル]>[保管プロファイルの管理] の順に選択します。[保持プロファイルの管理] ダイアログが表示されます。

- 3 変更する保管プロファイルを選択して、[編集]をクリックします。
- 4 ダイアログのフィールドを変更します。
- 5 [アーカイブの有効化]フィールドで[はい]を選択します。
- 6 [OK]をクリックします。

## カスタム保持プロファイルの作成

カスタム保持プロファイルを作成してアーカイブデータテーブルに割り当てるには、以下の手順を実行します。

- 1 [管理コンソール]から、ナビゲーションペインの[テーブル]アイコンをクリックします。
- 2 [ファイル]>[保持プロファイル]>[保持プロファイルの管理]の順に選択します。[保持プロファイルの管理]ダイアログが表示されます。
- 3 [作成]をクリックします。[保持プロファイルの作成]ダイアログが表示されます。
- 4 以下の情報を入力します。

フィールド	説明
プロファイル名	保管プロファイルの名前。最長 64 文字。
保持日数	データをアーカイブデータテーブルに移行するまで、アクティブなデータテーブルに保持しておく日数。全てのデータをアクティブなデータテーブルに保持しておきたい（アーカイブデータテーブルにデータを一切移行しない）場合は、[永久]フィールドで[はい]を選択します。
アーカイブ保持日数	データを削除するまで、アーカイブデータテーブルに保持しておく日数。全てのデータをアーカイブデータテーブルに保持しておきたい（アーカイブデータテーブルからデータを一切削除しない）場合は、[永久]フィールドで[はい]を選択します。
説明	保持プロファイルの説明。最長 255 文字。
アーカイブの有効化？	デフォルト:[いいえ]。アーカイブを有効にするには[はい]を選択し、アクティブおよびアーカイブのデータテーブルを作成します。

- 5 [OK]をクリックします。
- 6 以下の手順に従って、カスタム保持プロファイルをテーブルに割り当てます。
  - a [管理コンソール]から、ナビゲーションペインの[テーブル]アイコンをクリックします。
  - b 一覧表示されたテーブルを選別するには、テーブルリストの上のプルダウンリストから特定のカテゴリ（System\_Resource など）および/または特定のタイプ（割合など）を指定します。
  - c 保持プロファイルを割り当てるテーブル（1つ以上）を選択します。
  - d [ファイル]>[保持プロファイル]>[保持プロファイルの割り当て]の順に選択します。[保持プロファイルの表示]ダイアログが表示されます。

- e 作成した保持プロファイルを選択します。
- f **[保持プロファイルの割り当て]** をクリックします。

## アーカイブデータレポートの表示

アーカイブデータレポートは、アクティブなデータレポートが表示可能な場所であればどこでも表示できます（アーカイブデータレポートを表示する前に、アーカイブ機能が有効になっていて、アーカイブデータテーブルにデータが入力されていることを確認すること）。**Web** アクセスサーバーから、アーカイブフォルダ内のレポートを入手できます。



アクティブなテーブルからのデータとアーカイブテーブルからのデータは、同じレポートには記載されません。



## 7 しきい値と変更フォーム

本章では、次の項目について説明します。

- しきい値サブパッケージで設定されているデフォルトのしきい値
- 変更フォームを使用して以下を行う
  - システムプロパティの更新(複数しきい値の設定を含む)
  - ファイルシステムプロパティの更新(1つのしきい値の設定を含む)

### しきい値のデフォルト設定

しきい値サブパッケージでは、システムとファイルシステムのしきい値のセットが適用されます。パフォーマンスがデフォルトのしきい値に達すると、OVPIではネットワーク管理システムにトラップが送信されます。次の表は、しきい値と重要度レベルをまとめたものです。

メトリック	デフォルトのしきい値	重要度
cpuutil_threshold	80%	中
swaputil_threshold	70%	中
memutil_threshold	70%	中
runq_threshold	3	中
pageout_threshold	5	中
FSutil_threshold	70%	中

上から5つのしきい値の値は、`K_SR_System.teel` ファイルで定義されています。最後の1つのしきい値の値は、`K_SR_FileSystem.teel` ファイルで定義されます。検出されたシステムはすべて、ここで紹介したデフォルト値に初期化されます。

これらのデフォルト値を実装する場合は特に必要な操作はありません。しきい値サブパッケージをインストールするだけです。1つまたは複数のデフォルト設定を変更するには、この後で説明する変更フォームを使用します。例外条件に対応するOVPIのアクションを変更したい場合は、**Thresholds Module**を設定する必要があります。詳細は、『**Thresholds Module 5.0 User Guide**』(英語)を参照してください。

## 変更フォーム

システムおよびファイルシステムの、**System Resource 4.1**用に管理されているオブジェクトは、**2**つの変更フォームで変更することができます。これらのフォームでは、既存のオブジェクトを修正することは可能ですが、新しいオブジェクトを作成することはできません。フォームはコンテキストによって異なるため、フォームを起動する前に選択していたすべてのオブジェクトを変更することができます。したがって、フォームを使用する際は十分な注意が必要です。**1**つのオブジェクトを変更するのか、複数のオブジェクトを変更するのかを、あらかじめ確認しておいてください。



新しいノード、場所、カスタマの作成や、既存のノード、場所、カスタマの変更を行う場合は、**Common Property Tables**のフォームを使用します。

## システムプロパティの更新

システムのプロパティ情報の更新フォームを起動するには、[管理コンソール]ウィンドウの左側にあるパネルで[**オブジェクト**]アイコンをクリックします。[オブジェクト/プロパティの管理]ビューが開きます。オブジェクトマネージャにオブジェクトの一覧が表示されます。表示されるオブジェクトの種類は、オブジェクトマネージャのどのビューを開いているかによって異なります。

デフォルトのビューは[デバイス]ビューで、デバイスの一覧が表示されます。[カスタマ]ビューにはカスタマの一覧が、[場所]ビューには場所の一覧が表示されます。ビューを変更するには、[**ビュー**] > [**ビューの変更**]を選択し、ポップアップウィンドウから別のビューを選択します。

更新対象のオブジェクトの種類が表示されたら、更新する特定のオブジェクトを選択します。オブジェクトを選択すると、[<オブジェクトタイプ>情報の更新]が[オブジェクト固有のタスク]の下に表示されます。更新タスクをダブルクリックすると、次のような[システムのプロパティ情報の更新]が開きます。

システム情報を更新するには、フォームの該当フィールドに変更を入力します。カスタマ名のフィールドと場所名のフィールドは無効になっています。その他のフィールドは変更可能です。変更を保存するには、[適用]をクリックしてください。変更内容の入力が完了したら[OK]をクリックし、変更内容を保存してフォームを閉じます。

## ファイルシステムのプロパティの更新

ファイルシステムプロパティを更新するには、フォームの各フィールドに変更を入力します。カスタマ名のフィールドと場所名のフィールドは無効になっています。その他のフィールドは変更可能です。変更を保存するには、[適用] をクリックしてください。変更内容の入力が完了したら [OK] をクリックし、変更内容を保存してフォームを閉じます。

システムリソース

ファイルシステムのプロパティの更新

このフォームで、ファイルシステムのプロパティ情報を変更できます。[OK] または [適用] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。[キャンセル] ボタンをクリックすると、取り消されます。

デバイス名 default

マウントポイント /

リモートマウントポイント

最新完全バックアップ 0000 0000 0001 0001 0000 0000 0000 0000

最新差分バックアップ 0000 0000 0001 0001 0000 0000 0000 0000

タイプ 1.3.6.1.2.1.25.3.9.3

カスタマ名 Acme

場所名 Reston

ファイルシステムしきい値の上限 例外が記録されてしきい値イベントが生成されるレベルです。

使用率しきい値% 70.00

OK 適用 キャンセル

## 8 リソースの最適化

**Filesystems Resource Optimization** は、最も使用率の高いファイルシステムと最も使用率の低いシステムに着目するレポートです。このレポートを使用すると、リソースを追加購入するのではなく、負荷バランスを調整することが、サービス品質を改善するための最短の方法かがわかります。

レポートの 1 番上の選択テーブルには、90 日以内に使用率が 90% に達すると予測されるシステムの一覧が表示されます。選択テーブルの下には過去 2 ~ 3 日の使用率がサービスのグレードの棒グラフで示されるので、最近の使用率の増減をトラッキングでき、また、深刻な状況が改善されつつあるのか悪化しているのかを確認できます。サービスのグレードのグラフの下にある線グラフは、使用率 (CPU、メモリー、スワップ、ファイルシステム、ページアウト、および実行キューの長さ) の日単位の増減をトラッキングします。

その後には、使用率の低いファイルシステムに関する情報が続きます。この選択テーブルには、90 日以内に使用率が 30% を下回ると予測されるファイルシステムが表示されます。

**Memory Resource Optimization** は、最も使用率の高いシステムメモリーと最も使用率の低いシステムメモリーを特定し、負荷バランスの調整によりサービスレベルを改善できるチャンスを示します。1 番上のテーブルからシステムを選択すると、そのシステムに関する詳細情報が表示されます。

このレポートのための集約はすべて、日単位で実行されます。1 番上にある選択テーブルには、90 日以内にメモリー使用率が 90% を上回ると予測されるシステムが表示されます。また、当日から 30、60、および 90 日間のメモリー使用率の予測も確認できます。1 番上の選択テーブルのすぐ下にあるテーブルには、選択されるシステムの次のような詳細情報が表示されます。

- カスタマ
- 場所
- ベンダー
- モデル
- オペレーティングシステム
- メモリー使用率のしきい値

サービスのグレードの積み上げ棒グラフには、CPU 使用率、メモリー使用率、スワップ使用率、実行キューの長さなど、システムの全体的な稼動状態が詳細に表示されます。タブで区切られた各線グラフには、選択されているシステムの日単位の CPU 使用率、メモリー使用率、スワップ使用率、ファイルシステム使用率、ページアウト数、実行キューの長さが示されます。90 日以内にメモリー使用率が 30% を下回ると予測されるシステムごとに、最上部の選択テーブルと各タブに分かれた詳細情報がいくつも表示されます。

## システムリソース



### ファイルシステムリソースの最適化

システムリソースのファイルシステムリソースの最適化レポートは、最も過剰使用/過少使用されているファイルシステムの詳細を表示し、追加投資を行うことなくサービスレベルを向上させる負荷バランスの機会を提供します。上のテーブルからシステムを選択すると、そのシステムの詳細情報が表示されます。

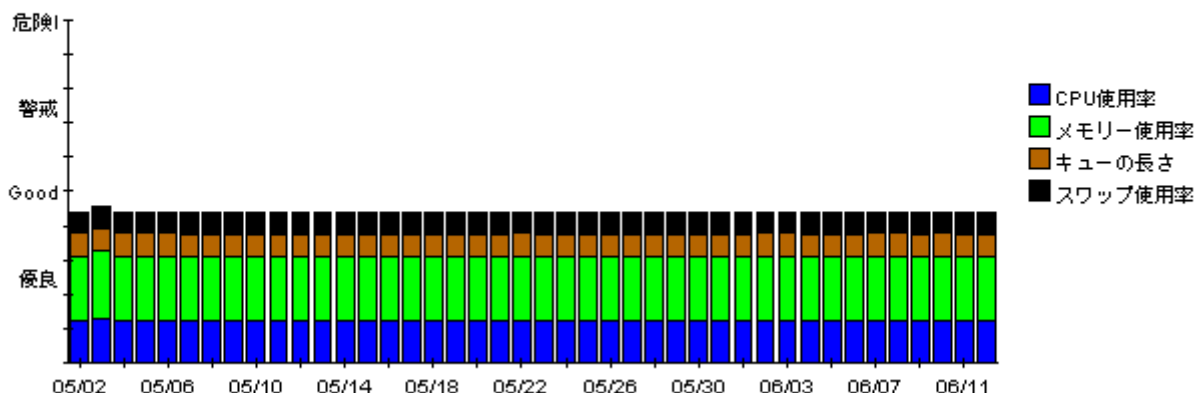
#### 過剰使用のファイルシステム 90日以内に使用率が90%を超えると予測されるもの

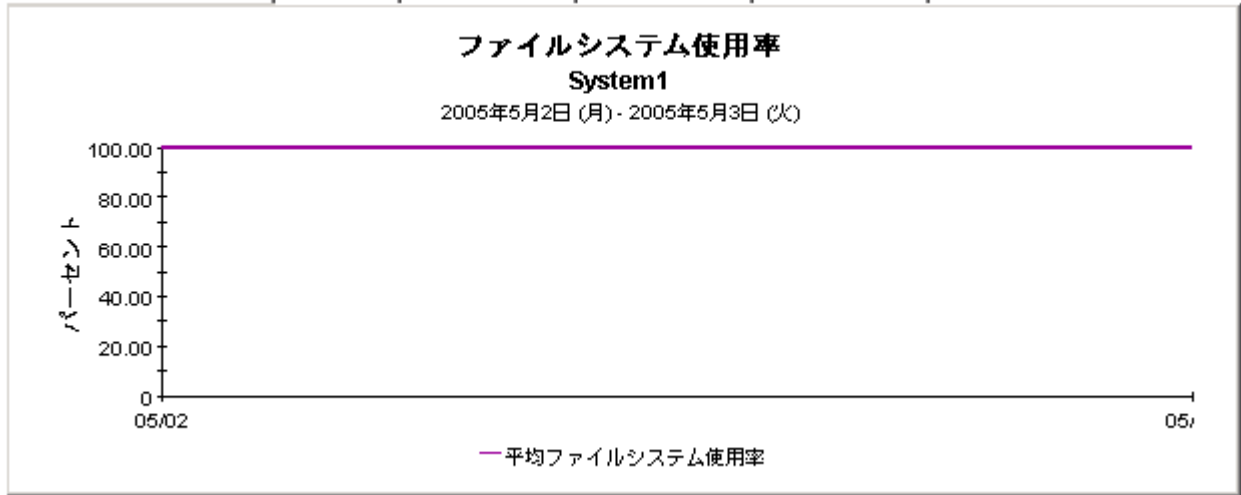
システム	ファイルシステム	現在の使用率	予測使用率 30	予測使用率 60	予測使用率 90
System1	/opt	100.00	100.00	100.00	100.00
System1	/opt	100.00	100.00	100.00	100.00
System5	/home	99.84	100.71	101.27	101.82
System1	/usr	95.05	95.06	95.06	95.06
System1	/usr	95.05	95.06	95.06	95.06
System6	/	87.13	89.00	90.01	91.02

ベンダー	モデル	O/S	カスタマ	場所	ファイルシステム使用率しきい値
Hewlett Packard	9000/785	HP-UX B.11.11 U	Acme	Reston	70.00

#### サービスのグレード(GOS) System1

2005年5月2日 (月) - 2005年6月12日 (日)





**過少使用のファイルシステム**  
今後90日以内の使用率が30%を下回ると予測されるもの

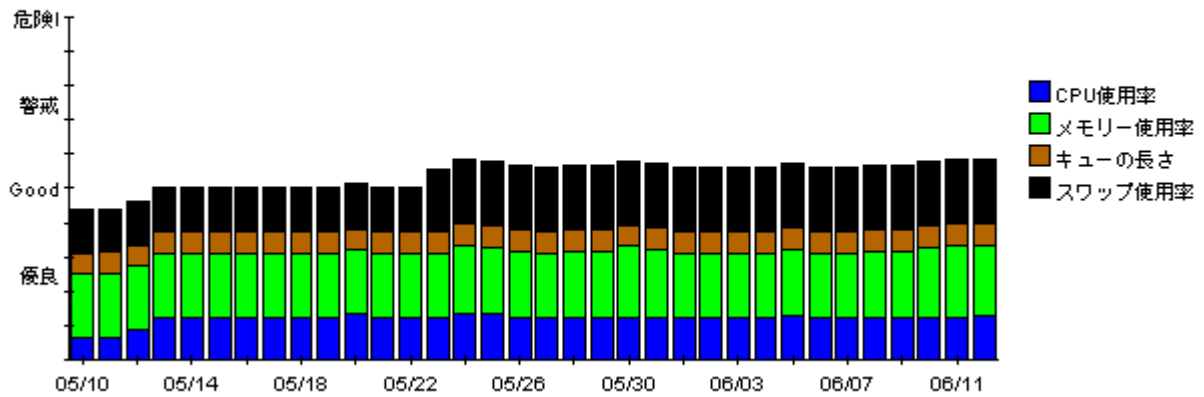
システム	ファイルシステム	現在の使用率	予測使用率 30	予測使用率 60	予測使用率 90
System6	/var/run	0.00	0.00	0.00	0.00
System6	/tmp	0.03	0.20	0.31	0.42
System7	/home	0.16	0.16	0.16	0.16
System1	/home	0.28	0.28	0.28	0.28
System1	/home	0.28	0.28	0.28	0.28
System7	/	3.73	3.78	3.80	3.83
System2	/	4.32	4.32	4.32	4.32
System3	/	4.32	4.32	4.32	4.32
System7	/	4.33	4.36	4.37	4.39
System3	/	4.33	4.36	4.37	4.39
System1	/	8.24	5.53	2.83	0.13

ベンダー	モデル	O/S	カスタマ	場所	ファイルシステムしきい値
Sun	sun4u	SunOS 5.9 G112233-08	Customer Unassigned	Location Unassigned	70.00

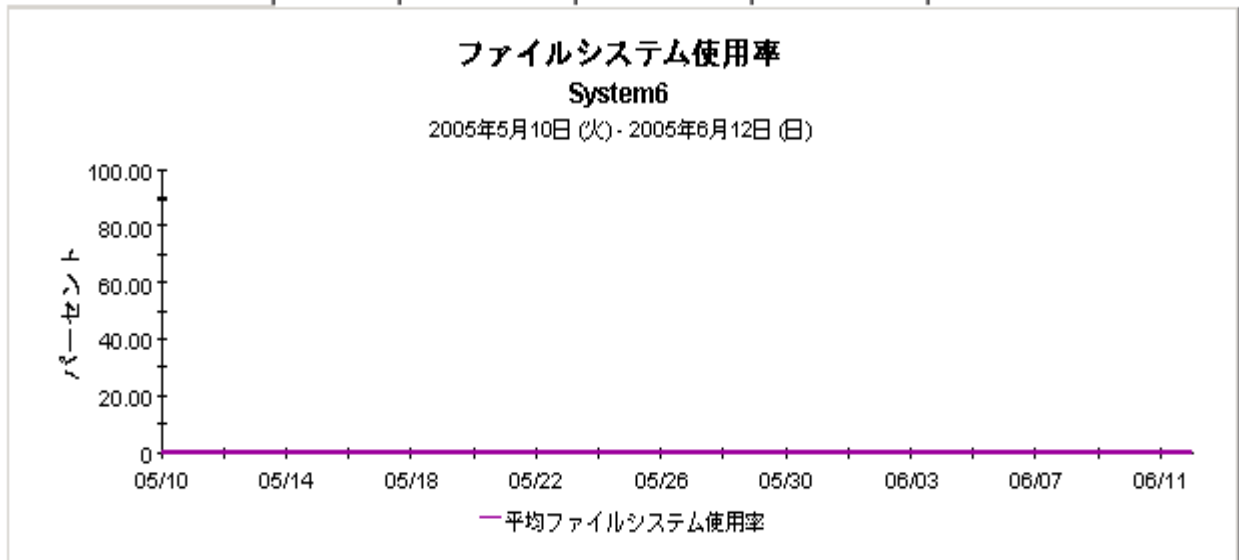
## サービスのグレード(GOS)

### System6

2005年5月10日 (火) - 2005年6月12日 (日)



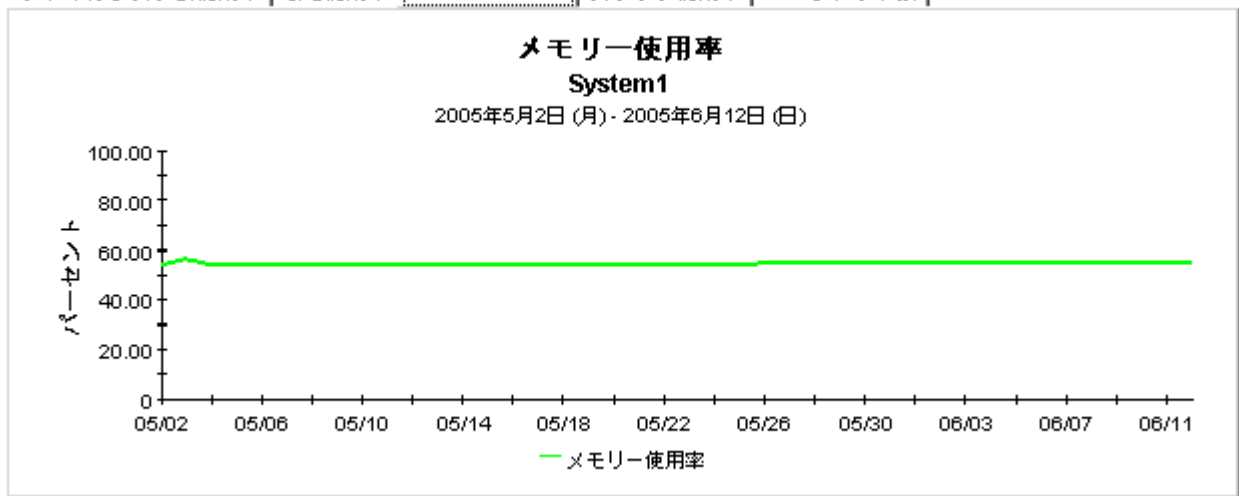
ファイルシステム使用率 | CPU使用率 | メモリー使用率 | スワップ使用率 | ページアウト数



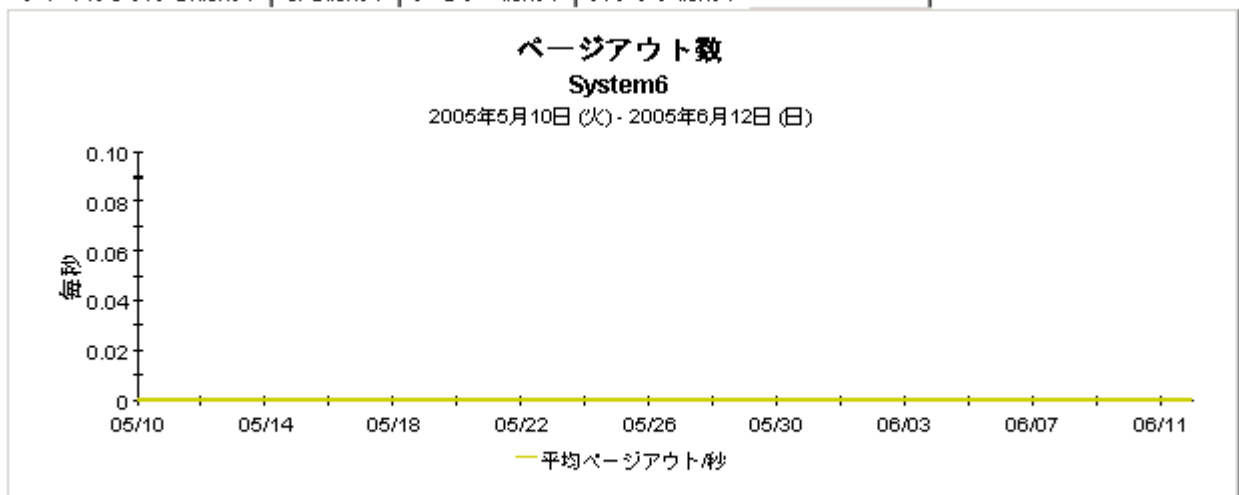
次ページへ続く



ファイルシステム使用率 | CPU使用率 | **メモリー使用率** | スワップ使用率 | ページアウト数



ファイルシステム使用率 | CPU使用率 | **メモリー使用率** | スワップ使用率 | ページアウト数



# システムリソース メモリーリソースの最適化



システムリソースのメモリーリソースの最適化レポートは、最も過剰使用/過少使用されているファイルシステムの詳細を表示し、追加投資を行うことなくサービスレベルを向上させる負荷分散例を示します。上のテーブルからシステムを選択すると、そのシステムの詳細情報が表示されます。

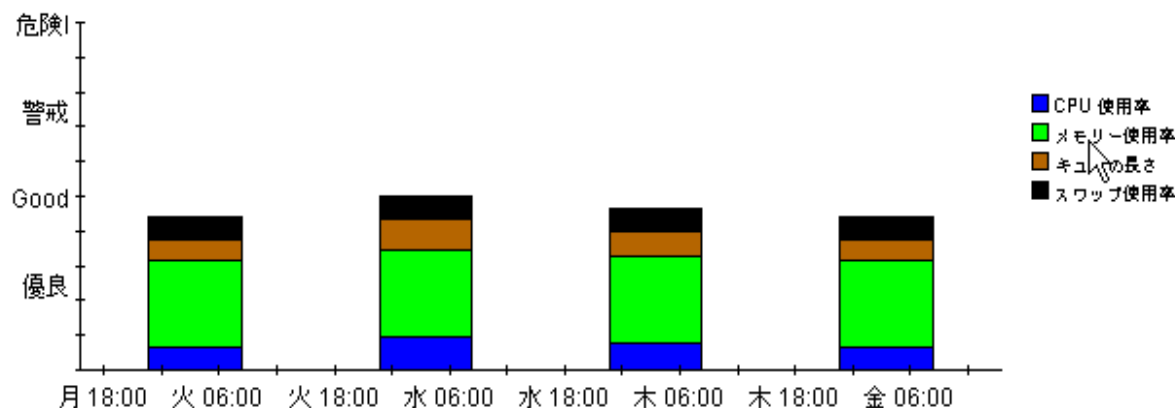
## 過剰使用のシステムメモリー 90日以内に使用率が90%を超えると予測されるもの

システム	現在の使用率	平均ページアウト/秒	予想使用率 30	予想使用率 60	予想使用率 90
ASIAPAC-BDCJAK	200.00	0.36	200.00	200.00	200.00
ASIAPAC-BDCPHIL	197.92	0.34	276.73	351.79	426.85
ASIAPAC-BDCTAI	125.82	0.00	650.01	1,149.24	1,648.47
ASIAPAC-BDCCHBJ	99.99	0.00	99.99	99.99	99.99
ASIAPAC-BDCSGP2	99.99	0.02	99.99	99.99	99.99
lampport	98.02	0.16	95.56	93.22	90.88
NT184173	96.48	0.21	102.72	108.65	114.59

ベンダー	モデル	O/S	場所	カスタマ	メモリー使用率しきい値
Unassigned	80686	NT 4.0 SvcPk 6	Location Unassigned	Customer Unassigned	70.00

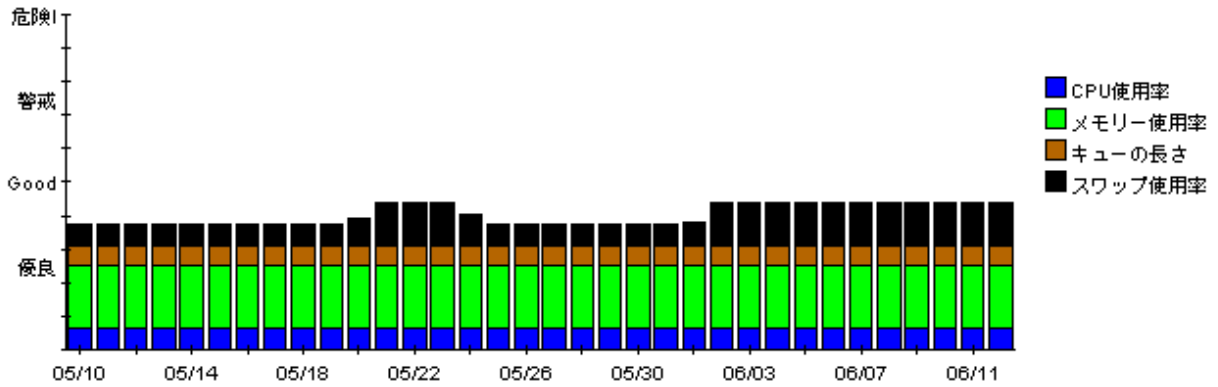
## サービスグレード (GOS) ASIAPAC-BDCJAK

2月17日 (火) 3:30 - 2月20日 (金) 3:30

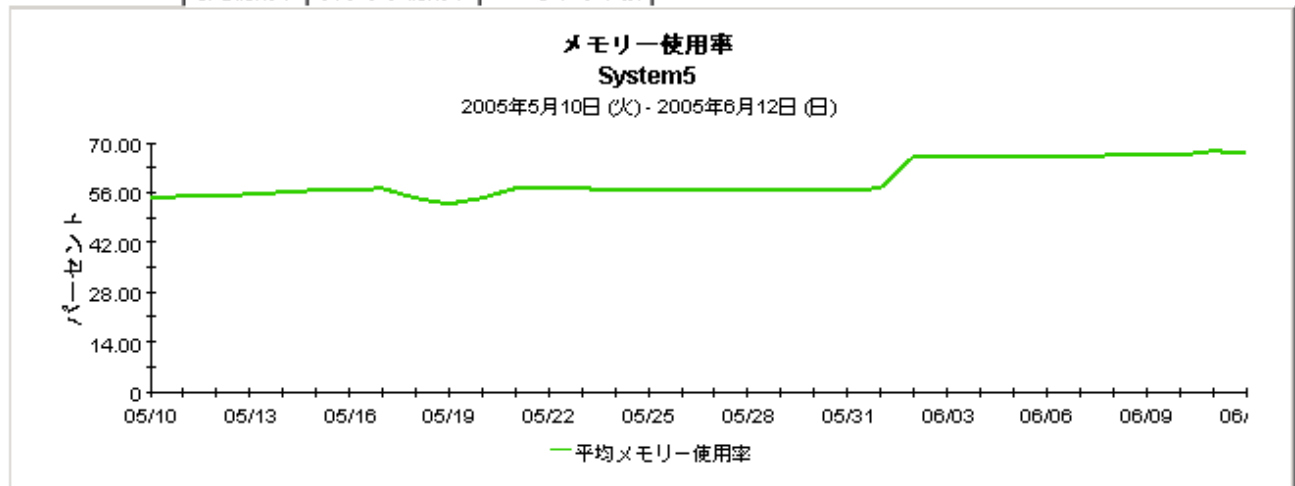


## サービスのグレード(GOS) System5

2005年5月10日(火) - 2005年6月12日(日)

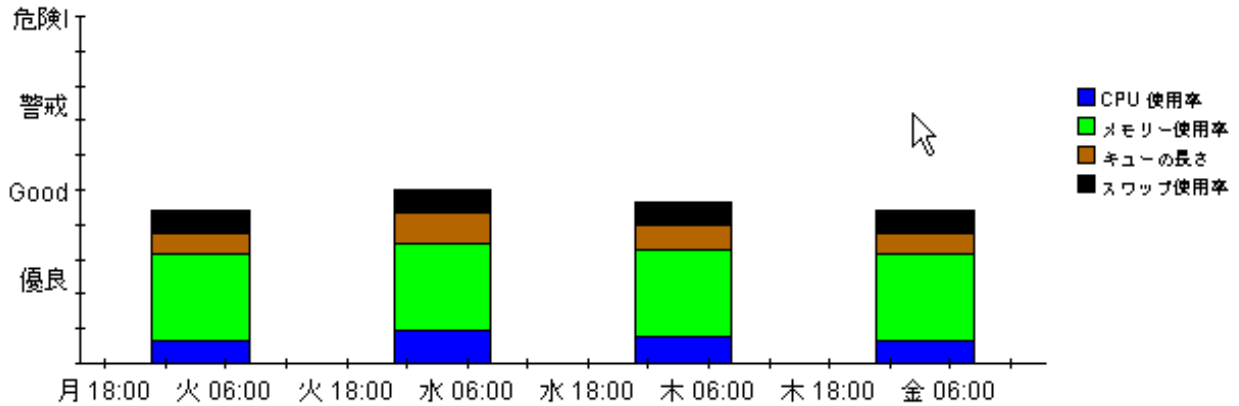


メモリー使用率 | CPU使用率 | スワップ使用率 | ページアウト数

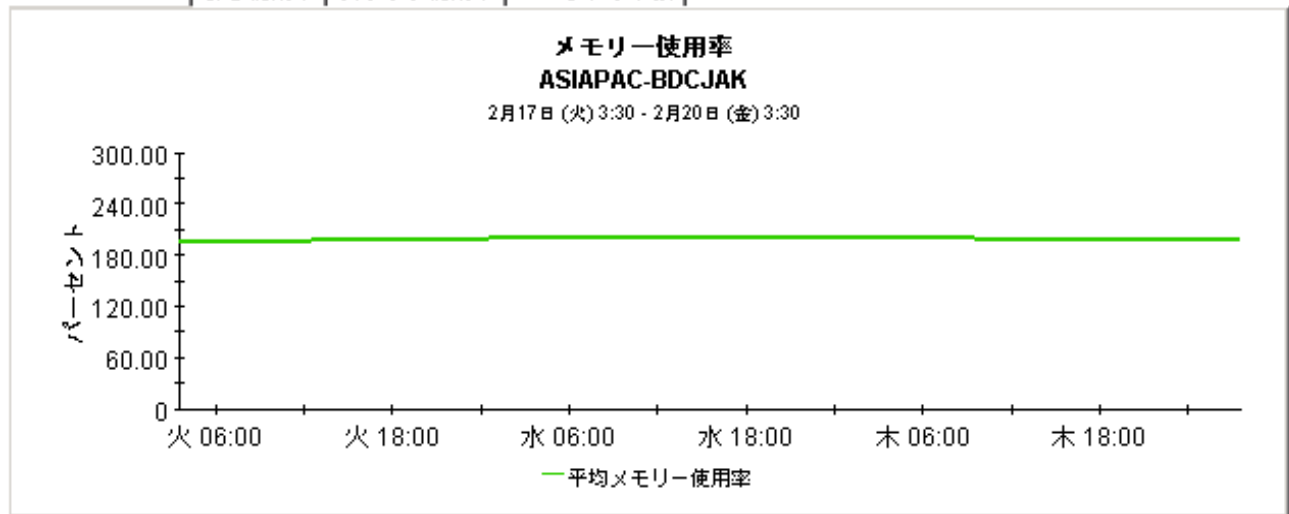


## サービスグレード (GOS) ASIAPAC-BDCJAK

2月17日 (火) 3:30 - 2月20日 (金) 3:30



メモリ使用率 | CPU 使用率 | スワップ使用率 | ページアウト数



## 9 サービスレベル管理

**サービスレベル管理 - エグゼクティブサマリー**では、前日のサービスのグレードと前日の例外数を調べます。このレポートは、カスタマと場所で集約された複数システムのパフォーマンスデータを分析し、期間サマリーにまとめます。

SLM レポートを使用すると、サービス品質が予期どおりかどうかを確認できます。1 番上の選択テーブルにはカスタマの一覧が、例外の数が多いものから少ないものの順に表示されます。各カスタマのデータには、そのカスタマが所有するすべてのシステムの例外の統計情報が示されます。2 番目の選択テーブルには場所の一覧が、例外の数が多いものから少ないものの順に表示されます。場所の選択テーブルは 1 番上の選択テーブルとリンクしており、場所ごとの例外の総数が表示されます。

このレポートを使用すると、前日の例外の内訳に関する情報をもとに、例外とその内訳の時間単位、日単位、月単位のビューを積み上げ棒グラフで表示できます。積み上げ棒グラフには、上で選択されている場所にあるすべてのシステムの例外の総数が示されます。レポートの最後には、1 時間ごとの稼動状態の評価が、サービスのグレードのグラフで表示されます。このグラフでは、場所のテーブルでハイライトされている場所にあるすべてのシステムからデータが集約されます。

## システムリソース



## サービスレベル管理のエグゼクティブサマリー

サービスレベル管理のエグゼクティブサマリーレポートは、システムパフォーマンスの概要を表示します。各チャートには、すべてのシステムに集約された主要メトリックの詳細が表示されます。パフォーマンスの重要な指標は個別に表示されると同時に「サービスのグレード」チャートに統合され、システムの稼働状態が一目でわかります。

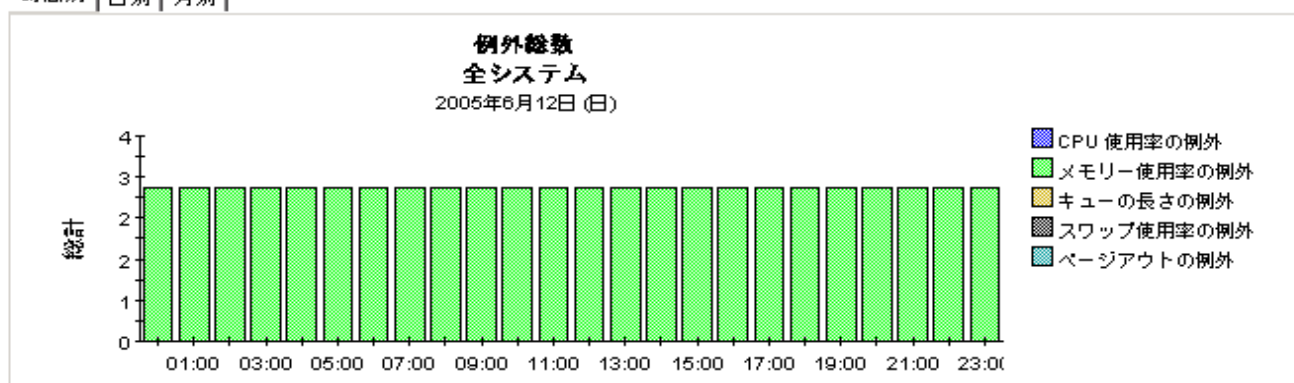
### カスタマ 2005年6月12日 (日)

カスタマ名	例外総数	キューの長さの例外	CPU 使用率の例外	メモリー使用率の例外	スワップ使用率の例外	ページアウトの例外
All Customers	72	0	0	72	0	0
Customer Unassigned	24	0	0	24	0	0
Acme	48	0	0	48	0	0

### 場所 2005年6月12日 (日)

場所名	例外総数	キューの長さの例外	CPU 使用率の例外	メモリー使用率の例外	スワップ使用率の例外	ページアウトの例外
All Locations	72	0	0	72	0	0
Location Unassigned	24	0	0	24	0	0
Reston	48	0	0	48	0	0

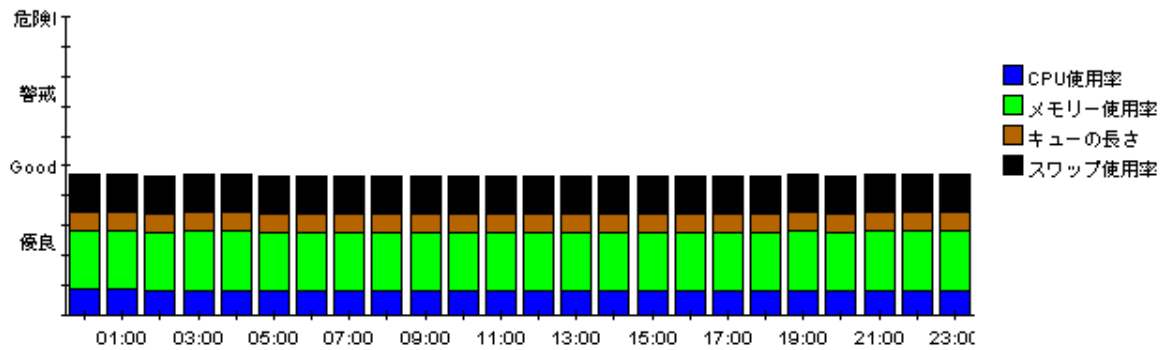
時間別 | 日別 | 月別



### サービスのグレード(時間別)

全システム

2005年6月12日(日)







# 10 リソース予測

リソース予測では、2つのレポートが用意されています。

- ファイルシステム予測
- メモリー使用率予測

この2つのレポートはフォーマットが非常に似ています。ファイルシステム予測の1番上の選択テーブルには、使用率が100%に近づいていて、90日以内に100%に達すると予測されるすべてのファイルシステムの一覧が表示されます。このテーブルの項目は、しきい値までの日数(DTT)にもとづいてソートされます。しきい値に最も近いファイルシステムがテーブルの1番上になります。

DTTの値のほかに、選択テーブルには次の値が示されます。

- 現在の使用率(ベースラインの移動平均)
- 当日から90日間の予測使用率

テーブルの項目を選択すると、次のような設定情報を表示できます。

- ベンダー
- モデル
- OS
- カスタマ
- 場所
- ファイルシステム使用率のしきい値レベル

この選択テーブルからさらに、日単位のサービスのグレード(GoS)のグラフで、使用率(CPU、メモリー、スワップ)とキュー長さの各評価をもとに総合的な評価の増減を表示できます。また、GoSグラフの下にはタブで区切られた一連の折れ線グラフがあり、使用率のレベルとページアウト数をトラッキングできます。これらのグラフでは、次のリソースの使用率がトラッキングされます。

- ファイルシステム
- CPU
- メモリー
- スワップ

メモリー使用率予測の1番上の選択テーブルには、使用率が100%に近づいていて、90日以内に100%に達すると予測されるすべてのシステムの一覧が表示されます。このテーブルの項目はDDTの低いものから高いものの順にソートされます。つまり、しきい値に最も近いものが1番上に、しきい値から最も遠いものが1番下に表示されます。選択テーブルには、DDTのほかにも次のことが示されます。

- 現在の使用率(ベースラインの移動平均)
- 当日から90日間の予測使用率

テーブルの項目を選択すると、次のようなシステムの詳細情報を表示できます。

- ベンダー
- モデル
- オペレーティングシステム
- カスタマ
- 場所
- メモリー使用率のしきい値

この選択テーブルからさらに、日単位の **GoS** のグラフで、ベースライン期間の総合的な評価の増減を表示できます。この総合評価は、**CPU** 使用率、メモリー使用率、スワップ使用率、およびキュー長さの各評価にもとづいたものです。

**GoS** グラフの下には、タブで区切られた一連のグラフで、傾向の日単位の分析が示されます。これらのグラフを見ると、以下の値がベースライン期間でどのように変化したかがわかります。

- メモリー使用率
- **CPU** 使用率
- スワップ使用率
- ページアウト数

この後に、ファイルシステム予測レポートのサンプルと、メモリー使用率予測レポートのサンプルを示します。

# システムリソース

## ファイルシステム予測



システムリソースのファイルシステム予測レポートは、90日以内に使用率のしきい値が、最初にリストされたしきい値に近くなると予測されるすべてのファイルシステムをリストアップします。システム管理者は、このレポートを使用してパフォーマンス評価のために必要な情報を得ることができ、予防策を取ることが可能になります。上のテーブルからシステムを選択すると、そのシステムの詳細情報が表示されます。

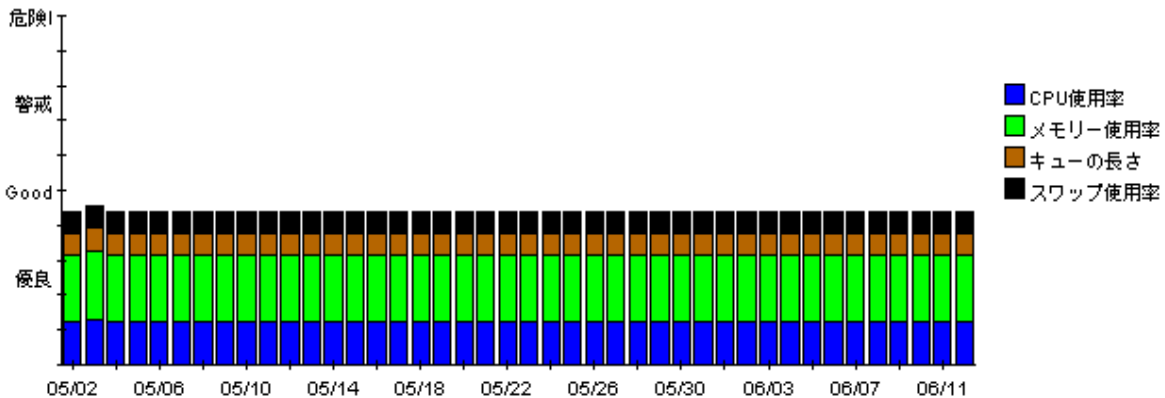
### しきい値までの推定日数(DTT) 90日以内に使用率が100%になると予測されるファイルシステム

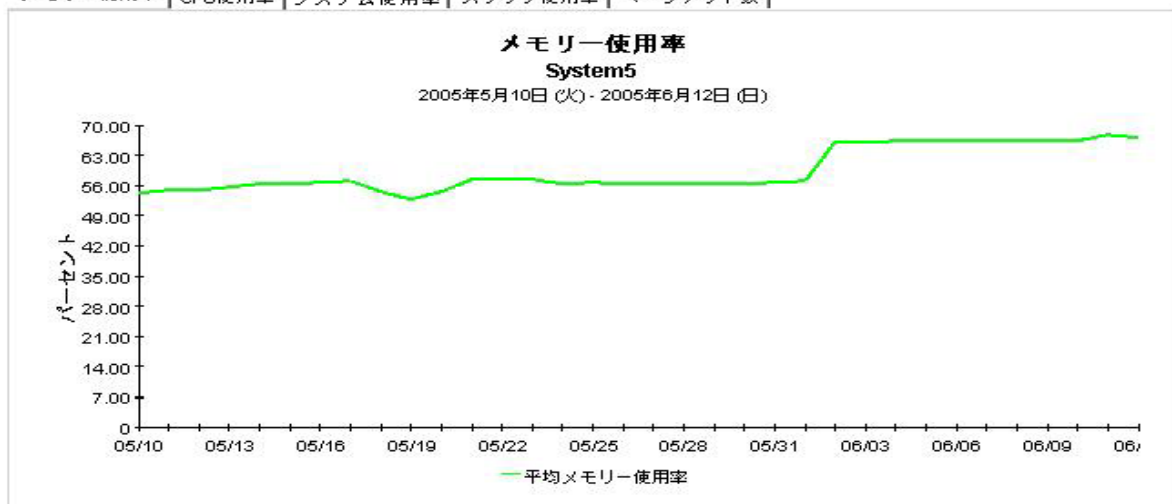
システム	ファイルシステム	DTT 使用率	現在の使用率	予想使用率 30	予想使用率 60	予想使用率 90
System1	/usr	0	95.05	95.06	95.06	95.06
System5	/home	0	99.84	100.71	101.27	101.82
System6	/	60	87.13	89.00	90.01	91.02

ベンダー	モデル	O/S	カスタマ	場所	ファイルシステム使用率しきい値
Hewlett Packard	9000/785	HP-UX B.11.11 U	Acme	Reston	70.00

### サービスのグレード(GOS) System1

2005年5月2日 (月) - 2005年6月12日 (日)





# システムリソース



## メモリー使用率予測

システムリソースのシステムメモリー予測レポートは、90日以内にメモリー使用率のしきい値が、最初にリストされたしきい値に近くなると予測されるすべてのシステムをリストアップします。システム管理者は、このレポートを使用してパフォーマンス評価のために必要な情報を得ることができ、予防策を取ることが可能になります。上のテーブルからシステムを選択すると、そのシステムの詳細情報が表示されます。

### しきい値までの推定日数(DTT) 90日以内にメモリーの使用率が100%になると予測されるシステム

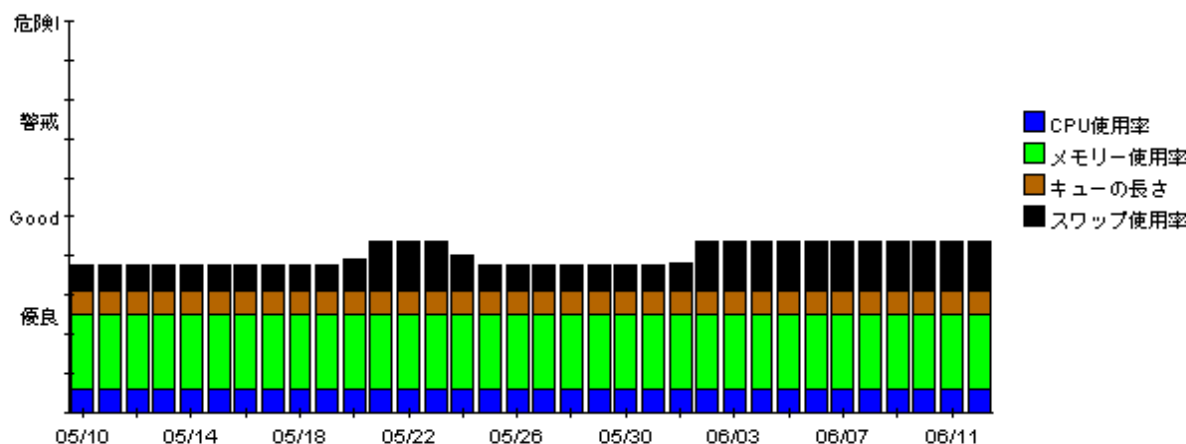
システム	DTT 使用率	現在の使用率	予測使用率 30	予測使用率 60	予測使用率 90
System5	78	59.83	79.75	92.61	105.46

ベンダー	モデル	O/S	場所	カスタマ	メモリー使用率しきい値
Hewlett Packard	9000/800	HP-UX B.11.11 U	Location Unassigned	Customer Unassigned	70.00

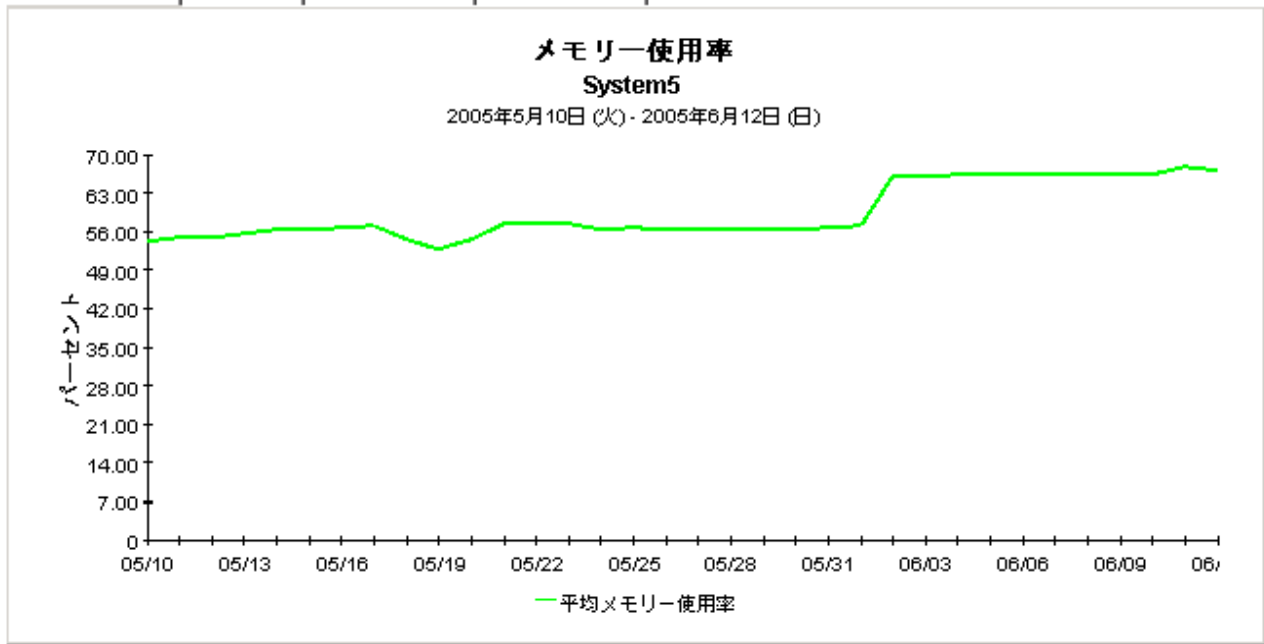
### サービスのグレード(GOS)

System5

2005年5月10日 (火) - 2005年6月12日 (日)



メモリー使用率 | CPU使用率 | スワップ使用率 | ページアウト数



# 11 例外のホットスポットとクイックビュー

本章では、次のレポートについて説明します。

- 例外のホットスポット
- クイックビュー
- クイックビュー - 準リアルタイム

## 例外のホットスポット

ホットスポットレポートには、前日の任意の時点で1つ以上のしきい値条件を超えたシステムの一覧が表示されます。しきい値を超えなかったシステムは、このレポートには表示されません。このレポートは特に、例外の最も多いシステムを特定したり、例外をさらに詳細に調べる場合に役立ちます。選択テーブルには、発生した例外の種類と、前日の深夜12時までの過去24時間の間に発生した各種例外の数が示されます。項目を選択すると、次のデータが表示されます。

- システムレベルの詳細情報 (ベンダー、モデル、カスタマ、場所、OS)
- 各リソースの例外しきい値

選択テーブルの下にある一連のグラフでは、前日のリソースの使用率レベルが時間単位でトラッキングされ、いつ例外が発生したかを正確に調べることができます。レポートの下部には、例外の詳細のグラフとサービスのグレード (GoS) のグラフがあります。1つ目のグラフには、1日を通して各ポーリングで検出されたデータが表示されます。2つ目のグラフには、各ポーリングのGoSの総合評価が表示されます。この総合評価は、CPU使用率、メモリー使用率、およびキューの長さにもとづいたものです。

## クイックビュー

クイックビューには、ホットスポットよりもさらに広範な評価が示されます。このレポートには、前日に例外が記録されたかどうかに関係なく、すべてのシステムが含まれます (デフォルトでは、選択テーブルは50行までに制限されています)。選択テーブルには、前日の使用率の平均が、実行キュー、CPU、メモリー、スワップ、およびページアウト数/秒別に表示されます。デフォルトのソート順はCPU使用率が基準になっています。テーブルの項目を選択すると、次のようなデータが表示されます。

- システムレベルの詳細情報 (ベンダー、モデル、カスタマ、場所、OS)
- 各リソースの例外しきい値

例外しきい値の情報の下に折れ線グラフには各リソースの時間単位のデータが示され、1日を通してデータの増減をトラッキングできます。

## クイックビュー - 準リアルタイム

クイックビュー - 準リアルタイムのフォーマットは、クイックビューとまったく同じです。

- 選択テーブルではすべてのシステムが CPU 使用率に基づいてソートされます。
- システムレベルの詳細情報
- 各リソースの例外しきい値
- 各リソースの折れ線グラフ

クイックビューでは、前日のデータを参照しますが、準リアルタイムでは、過去 6 時間のデータを確認できます。クイックビューの準リアルタイム版を使用すると、ユーザーに影響を及ぼす状況になる前に、問題の部分を特定することができます。

## クイックビュー - 準リアルタイム スナップショット - スナップショット

クイックビュー - 準リアルタイム - スナップショットのフォーマットは、クイックビュー - 準リアルタイムとまったく同じです。

- 選択テーブルの各項目は、過去 6 時間の CPU 使用率に基づいてソートされます。
- システムレベルの詳細情報
- 各リソースの例外しきい値
- 過去 6 時間の各リソースの折れ線グラフ

クイックビュー - 準リアルタイムでは、過去 6 時間のデータを参照します。準リアルタイムのスナップショット版でも同じデータを参照しますが、レポートを開くときに指定した特定のシステムのデータのみが表示されます。参照したいシステム (複数選択可) が前もって特定されている場合は、準リアルタイムレポートのスナップショット版を使用してください。



# システムリソース



## ホットスポット

システムリソースのホットスポットレポートは、前日、しきい値条件を超えたシステムのリストを表示します。しきい値を超えたシステムは、例外の総数によってランク付けされます。上のテーブルからシステムを選択すると、そのシステムの詳細情報が表示されます。

### その日の問題サマリー その日最も例外の多かったシステム 2005年6月12日 (日)

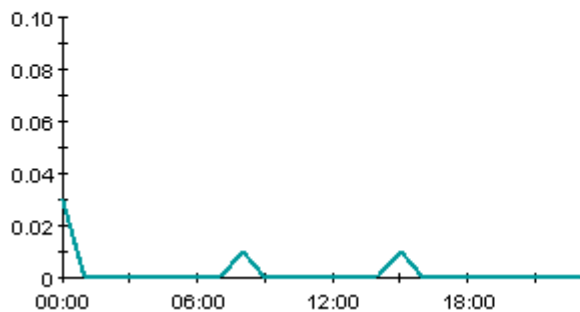
システム	例外総数	キューの長さの例外	CPU 使用率の例外	メモリー使用率の例外	スワップ使用率の例外	ページアウトの例外
System2	24.00	0.00	0.00	24.00	0.00	0.00
System3	24.00	0.00	0.00	24.00	0.00	0.00
System6	24.00	0.00	0.00	24.00	0.00	0.00
System4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
System1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
System5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
System7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

ベンダー: Hewlett Packard      モデル: 9000/800      O/S: HP-UX B.11.11 U      場所: Reston      カスタマ: Acme

CPU 使用率しきい値: 80.00      メモリー使用率しきい値: 70.00      スワップ使用率しきい値: 70.00      キュー実行しきい値: 3.00      ページアウトしきい値: 5.00

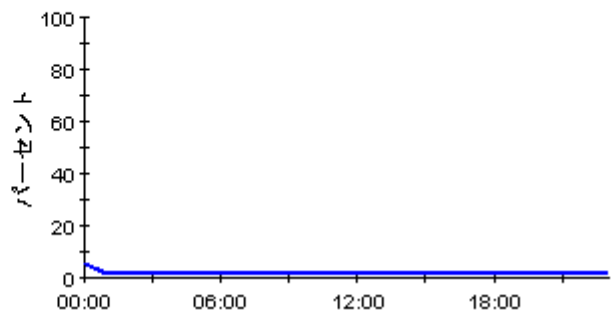
#### キューの実行 System2

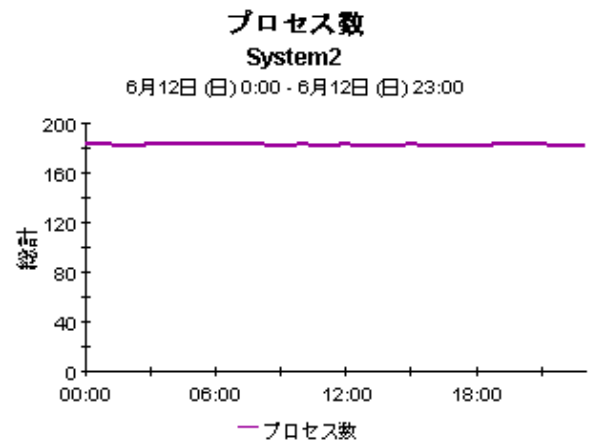
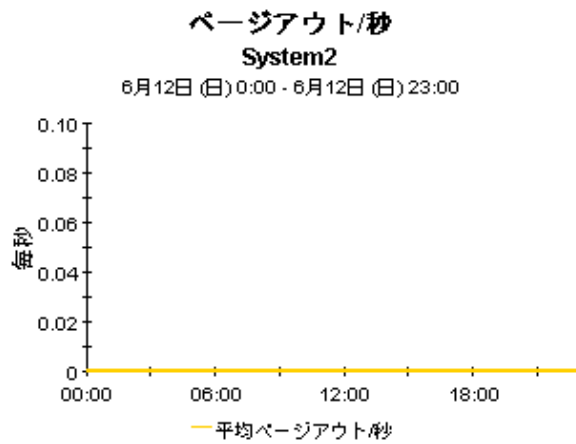
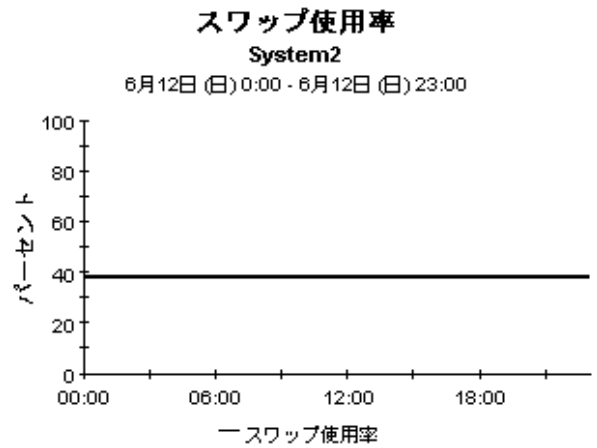
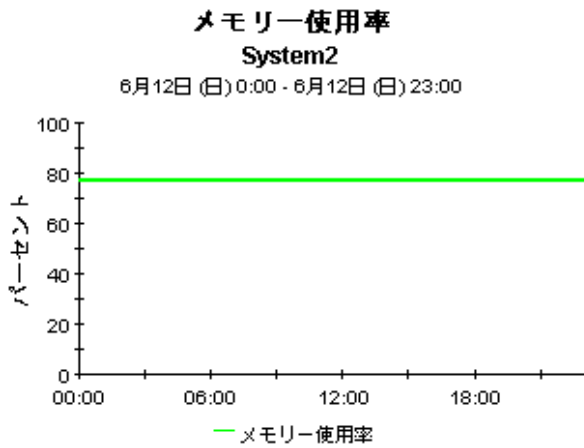
6月12日 (日) 0:00 - 6月12日 (日) 23:00



#### CPU使用率 System2

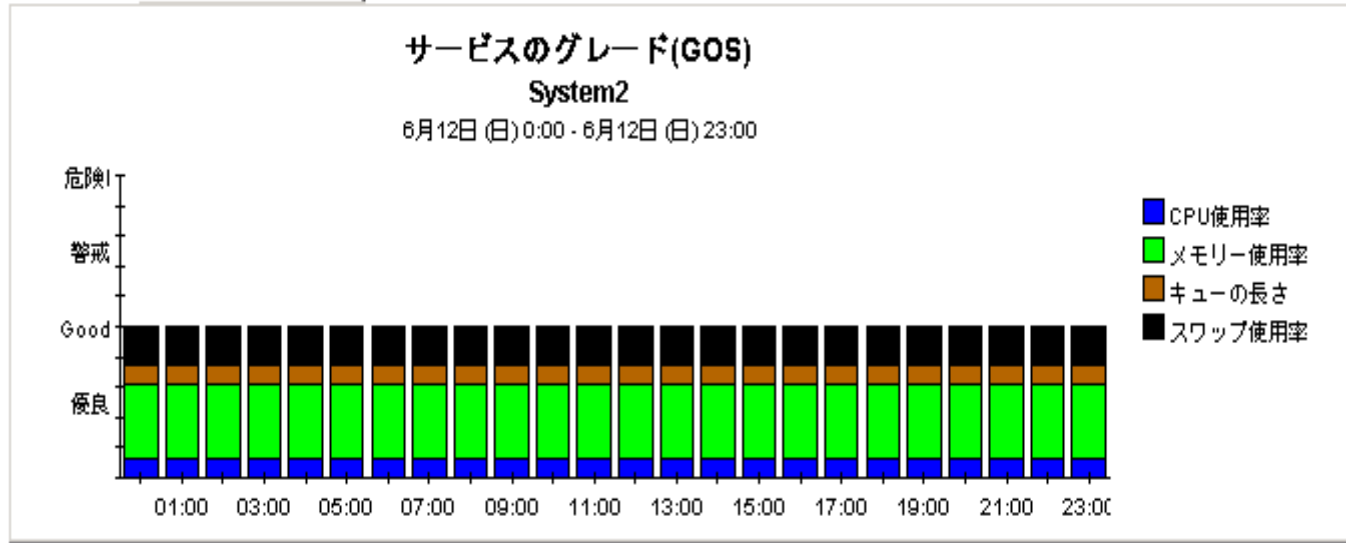
6月12日 (日) 0:00 - 6月12日 (日) 23:00





例外的詳細 | サービスのグレード |

例外的詳細 System2				
例外時間	CPU使用率	メモリー使用率	キューの長さ	スワップ使用率
日 6/12 12:00 午前	5.12	76.84	0.03	38.00
日 6/12 01:00 午前	1.15	76.73	0.00	38.00
日 6/12 02:00 午前	1.22	76.74	0.00	38.00
日 6/12 03:00 午前	1.09	76.87	0.00	38.00
日 6/12 04:00 午前	1.28	76.83	0.00	38.00
日 6/12 05:00 午前	1.09	76.87	0.00	38.00
日 6/12 06:00 午前	1.07	76.89	0.00	38.00
日 6/12 07:00 午前	1.08	76.88	0.00	38.00



# システムリソース

## クイックビュー



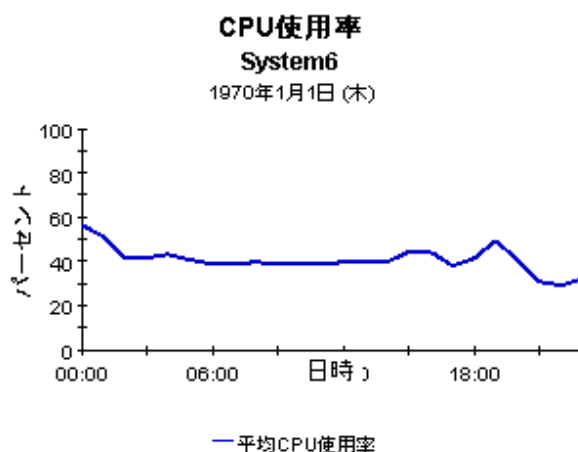
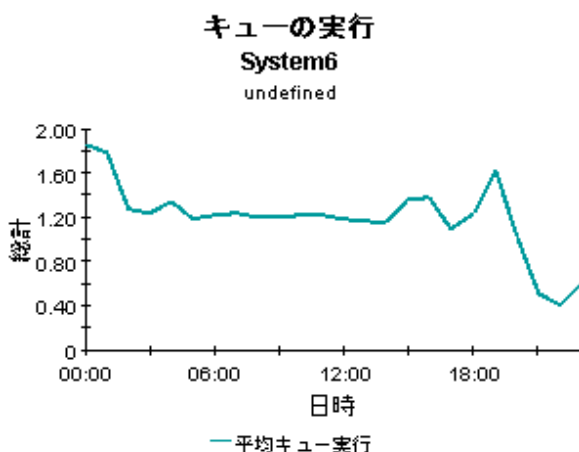
システムリソースクイックビューレポートは、システム管理スタッフに個々のシステムのパフォーマンスの詳細を表示します。上部の表からシステムを選択すると、そのシステムの詳細情報が表示されます。

### クイックビューの選択 2005年6月12日 (日)

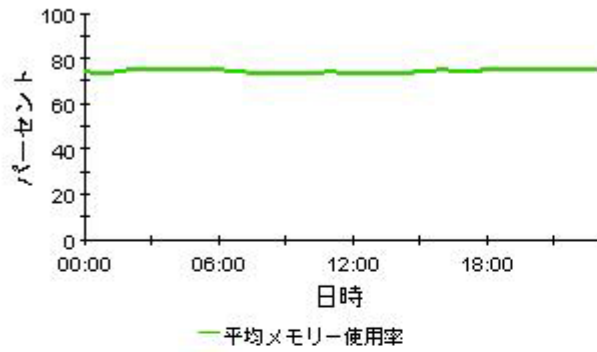
システム	平均キュー実行	平均CPU使用率	平均メモリー使用率	平均スワップ使用率	ページアウト数/秒	プロセス数
System6	1.19	40.61	74.32	54.00	0.00	4,388.00
System1	1.15	28.73	54.97	3.04	0.00	3,267.00
System5	0.01	3.96	67.20	30.37	0.00	4,895.00
System7	0.00	1.40	65.10	30.00	0.00	3,861.00

ベンダー	モデル	O/S	場所	カスタマ
Sun	sun4u	SunOS 5.9 G112233-08	Location Unassigned	Customer Unassigned

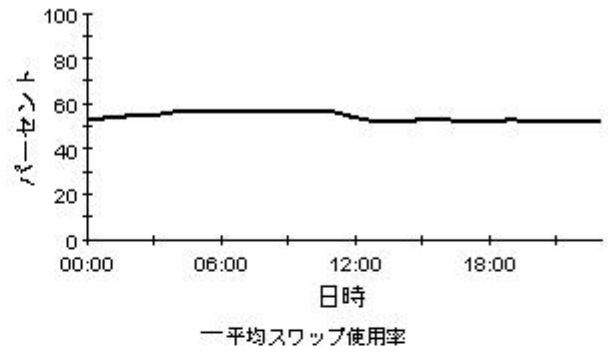
キュー実行しきい値	CPU 使用率しきい値	メモリー使用率しきい値	スワップ使用率しきい値	ページアウトしきい値
3.00	80.00	70.00	70.00	5.00



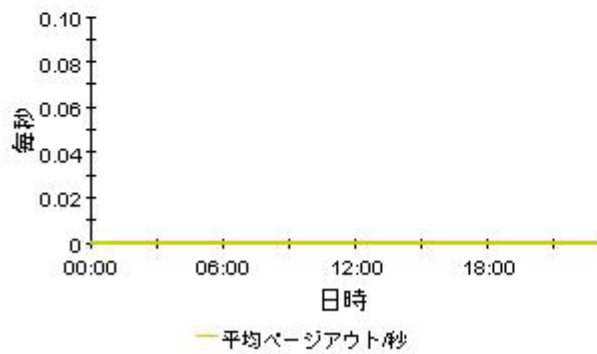
**メモリー使用率**  
15.70.186.76  
1970年1月1日 (木)



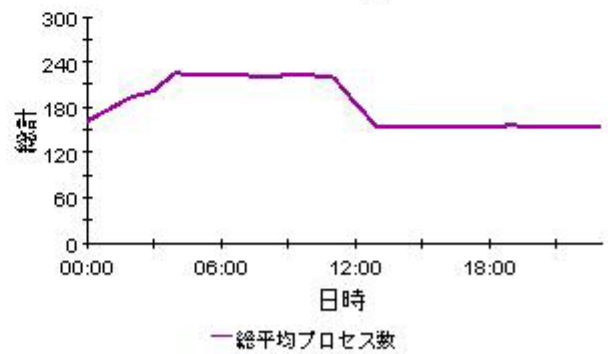
**スワップ使用率**  
15.70.186.76  
undefined



**ページアウト数**  
15.70.186.76  
undefined



**プロセス数**  
15.70.186.76  
2005年6月12日 (日)



# システムリソース クイックビュー - 準リアルタイム



システムリソースの準リアルタイムクイックビューは、個々のシステムのパフォーマンスに関する最新の情報をネットワーク管理スタッフに表示します。上のテーブルからシステムを選択すると、現在のシステムパフォーマンス (最新のデータ収集まで) を詳細に調査することができます。

## システム選択リスト 準リアルタイム情報を表示するシステムの選択

システム	平均キュー実行	平均CPU使用率	平均メモリー使用率	平均スワップ使用率	平均ページアウト/秒	プロセス数
NTA23158	16.24	100.01	86.16	47.02	0.11	
LAPBACK1	2.24	99.98	51.58	24.12	0.00	35.00
NT2277	2.96	89.99	86.38	31.52	0.00	
ovpsunt2	1.56	86.71	51.72	21.00	0.00	86.00
HPCPBOCITRIX	1.85	80.98	20.88	591.36	0.00	73.57
ABTISO	1.56	72.74	39.71	41.15	0.02	

### ベンダー

Unassigned

### モデル

Intel Pentium+ or unknown

### O/S

NT 5.0 SvcPk 4

### 場所

Location Unassigned

### カスタマ

Customer Unassigned

### キュー実行しきい値

3.00

### CPU 使用率しきい値

80.00

### メモリー使用率しきい値

70.00

### スワップ使用率しきい値

70.00

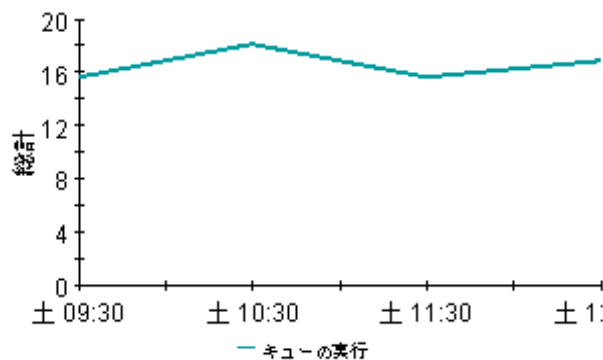
### ページアウトしきい値

5.00

### キューの実行

NTA23158

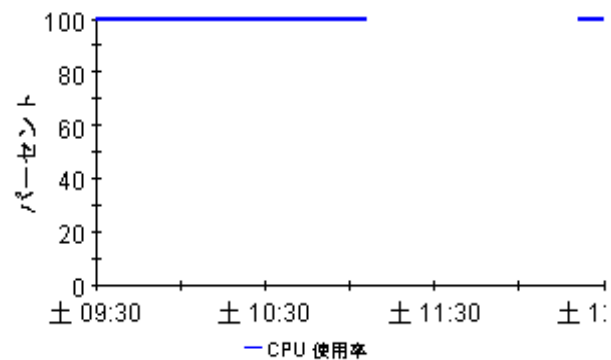
2月21日 (土) 9:30



### CPU 使用率

NTA23158

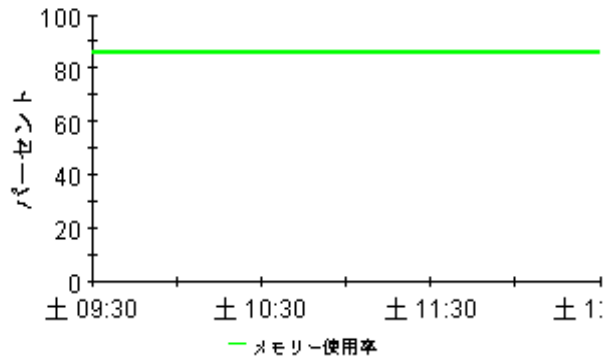
2月21日 (土) 9:30



### メモリー使用率

NTA23158

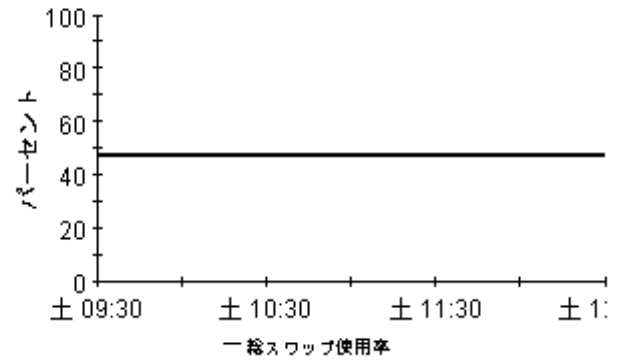
2月21日 (土) 9:30



### スワップ使用率

NTA23158

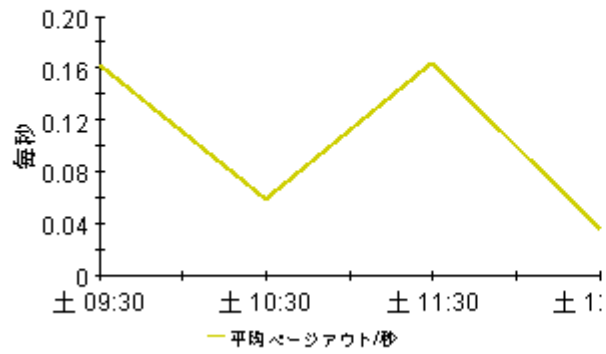
2月21日 (土) 9:30



### ページアウト数

NTA23158

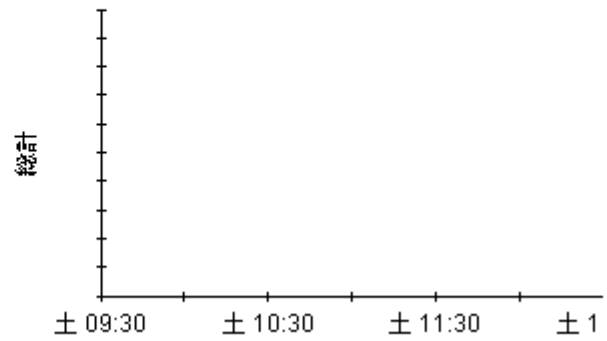
2月21日 (土) 9:30



### プロセス数

NTA23158

2月21日 (土) 9:30



# システムリソース スナップショット - 準リアルタイム



システムリソースの準リアルタイム スナップショット レポートは、個々のシステムのパフォーマンスに関する最新の情報をネットワーク管理スタップに表示します。上のテーブルからシステムを選択すると、現在のシステムパフォーマンス (最新のデータ収集まで) を詳細に調査することができます。

## システム選択リスト 準リアルタイム情報を表示するシステムの選択

システム	平均キュー実行	平均CPU使用率	平均スワップ使用率	平均メモリー使用率	平均ページアウト/秒	プロセス数
NTA23158	16.24	100.01	47.02	86.16	0.11	
LAPBACK1	2.24	99.98	24.12	51.58	0.00	35.00
NT2277	2.96	89.99	31.52	86.38	0.00	
ovpsunt2	1.56	86.71	21.00	51.72	0.00	86.00
HPCPBOCITRIX	1.85	80.98	591.36	20.88	0.00	73.57
ABTISO	1.56	72.74	41.15	39.71	0.02	

**ベンダー**  
Unassigned

**モデル**  
Intel Pentium+ or unknown

**O/S**  
NT 5.0 SvcPk 4

**場所**  
Location Unassigned

**カスタマ**  
Customer Unassigned

**キュー実行しきい値**  
3.00

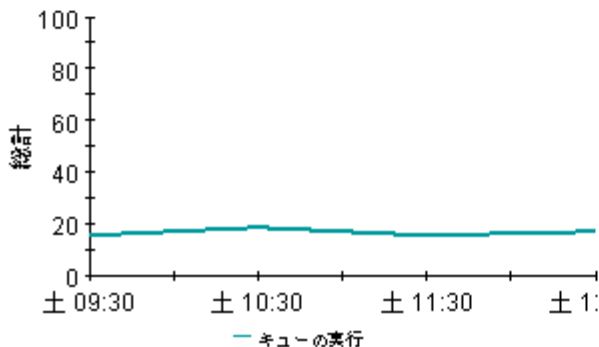
**CPU 使用率しきい値**  
80.00

**メモリー使用率しきい値**  
70.00

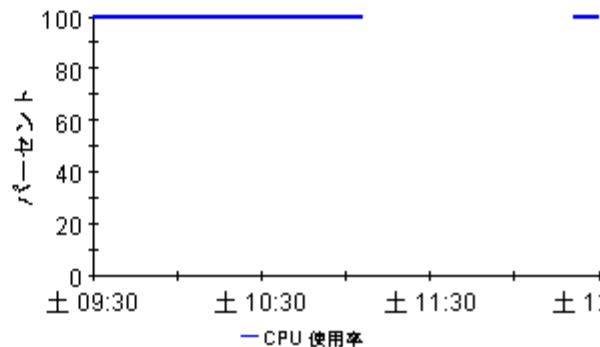
**スワップ使用率しきい値**  
70.00

**ページアウトしきい値**  
5.00

**キューの実行**  
NTA23158  
2月21日 (土) 9:30



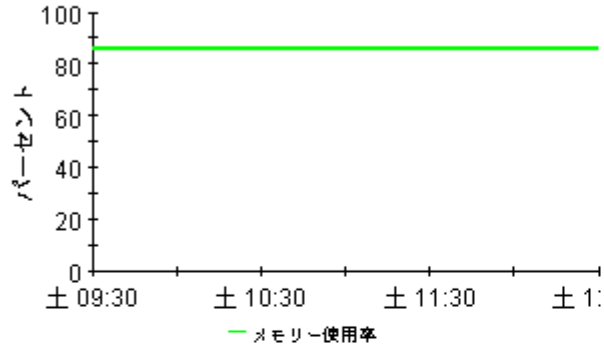
**CPU 使用率**  
NTA23158  
2月21日 (土) 9:30





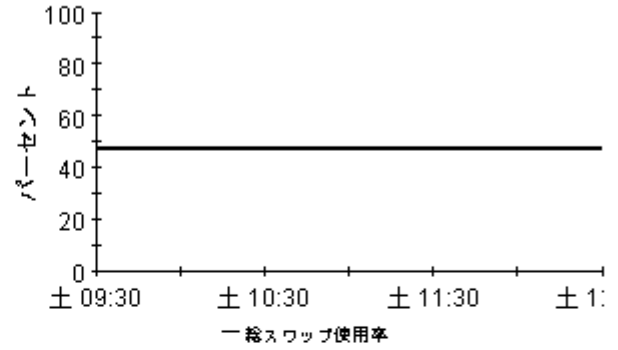
メモリー使用率  
NTA23158

2月21日(土)9:30



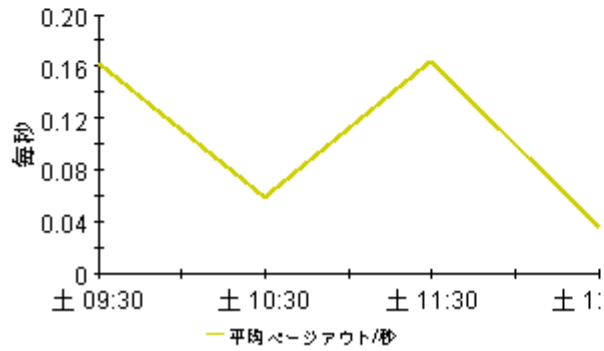
スワップ使用率  
NTA23158

2月21日(土)9:30



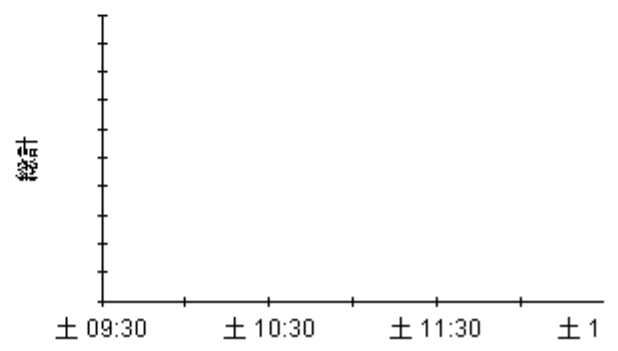
ページアウト数  
NTA23158

2月21日(土)9:30



プロセス数  
NTA23158

2月21日(土)9:30





## 12 トップテンレポート

System Resource 4.1 には、2つのトップテンレポートが用意されています。

- トップテン (例外ボリューム、CPU 使用率、ファイルシステム使用率)
- トップテントランザクション

どちらのレポートでもランク付け機能を実行します。1つ目のレポートには3つのテーブルが含まれており、グラフはありません。このレポートでは、前日の例外数、前日のCPU使用率、および前日のファイルシステム使用率に着目します。このレポートを使用すると、例外数の多いシステムや、CPU使用率の高いシステム、ファイルシステム使用率の高いシステムを特定できます。

システムのランク付けに加え、このレポートの各テーブルには、次のような詳細情報が示されます。

- カスタマ
- 場所
- 製造元
- モデル
- オペレーティングシステム

このレポートに表示されるシステムは、しきい値を超えていないシステム、例外が発生していないシステムもあります。このレポートで示される例外の数と使用率レベルは、しきい値レベルを超えているものも下回っているものもあります。最も例外数の多いシステムを調べたい場合は、ホットスポットレポートを使用してください。

## システムリソース

### トップテン



システムリソースのトップテンレポートは、その日のボリュームを占めている上位10のシステムと最もシステム状態が悪い10のシステムをリストアップします。ボリュームやシステム状態が前日から最も大きく変化したサーバーも同様にリストアップされ、詳細な調査が必要な不安定な状態にあることを示します。上側の表からシステムを選択すると、そのシステムの詳細情報が表示されます。

#### 最もボリュームが大きいシステム 2005年6月12日 (日)

システム	入力パケット 総数	出力パケット 総数	平均衝突 レート/分	平均エラー レート/分	カスタマ	場所
System6	9,214,548.00	9,474,490.00	0.00	0.00	Customer Unassigned	Location Unassigned
System2	11,646,028.00	104,444.00	0.00	0.00	Acme	Reston
System3	11,646,028.00	104,444.00	0.00	0.00	Acme	Reston
System4	5,850,213.00	88,606.00	0.00	0.00	Acme	Reston
System1	5,841,930.00	83,734.00	0.00	0.00	Acme	Reston
System5	697,400.00	1,052,892.00	0.00	0.00	Customer Unassigned	Location Unassigned
System7	138,313.00	55,062.00	0.00	0.00	Customer Unassigned	Location Unassigned



#### CPU使用率が最も高いシステム 2005年6月12日 (日)

システム	平均CPU使 用率	キューの長 さの平均	カスタマ	場所	製造元	モデル
System6	40.61	1.19	Customer Unassigned	Location Unassigned	Sun	sun4u
System1	28.73	1.15	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/785
System5	3.96	0.01	Customer Unassigned	Location Unassigned	Hewlett Packard	9000/800
System7	1.40	0.00	Customer Unassigned	Location Unassigned	Hewlett Packard	9000/800
System2	1.28	0.00	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800
System3	1.28	0.00	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800
System4	0.50	0.00	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800

ファイルシステム使用率が最も高いシステム  
2005年6月12日(日)

システム	平均ファイルシステム使用率	ファイルシステム	カスタマ	場所	製造元	モデル
System1	100.00	/opt	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/785
System5	100.00	/home	Customer Unassigned	Location Unassigned	Hewlett Packard	9000/800
System1	95.05	/usr	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/785
System6	88.67	/	Customer Unassigned	Location Unassigned	Sun	sun4u
System2	87.91	/opt	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800
System3	87.91	/opt	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800
System2	83.62	/home	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800
System3	83.62	/home	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800
System4	82.14	/striped	Acme	Reston	Hewlett Packard	9000/800
System7	79.98	/var	Customer Unassigned	Location Unassigned	Hewlett Packard	9000/800



## A バージョン履歴

以下の表に、System Resource Report Pack のバージョン 3.0 以降の機能拡張の履歴を示します。

バージョン	リリース日	機能 / 拡張機能
3.0	2003 年 5 月	OVPI オブジェクトマネージャのサポート 新しい変更フォーム： <ul style="list-style-type: none"><li>• システムのプロパティ情報の更新</li><li>• ファイルシステムのプロパティの更新</li></ul> 新しいデータパイプ： <ul style="list-style-type: none"><li>• SysRes OVPA Datapipe 1.0</li></ul>
3.0	2003 年 10 月	新しいデータパイプ： SysRes OVPA Datapipe 2.0
4.0	2004 年 4 月	Oracle のサポート 新しいレポート： <ul style="list-style-type: none"><li>• CPU 使用率予測</li><li>• システム別 CPU 詳細</li><li>• ディスクリソース情報</li><li>• 論理ボリューム情報</li><li>• ネットワークインタフェース</li><li>• システム別プロセス</li><li>• トップテナントランザクション</li><li>• システム当たりのランザクションのスナップショット</li><li>• システムの可用性 (ダウンタイム / 動作時間)</li><li>• システムインベントリ</li><li>• 各アプリケーションを実行するシステム / スナップショット</li></ul>

バージョン	リリース日	機能 / 拡張機能
4.0	2004 年 4 月	<p>既存のレポートの変更：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>SLM— エグゼクティブサマリーレポート <ul style="list-style-type: none"> <li>[カスタマ] 選択テーブル:[例外総数]が追加されました</li> <li>[場所] テーブル:[総ボリューム]と[平均日別ボリューム]が削除されました</li> <li>[例外総数] グラフ:[日別] タブと[月別] タブが追加されました</li> <li>[例外総数] グラフ: ボリュームへの参照が削除されました</li> </ul> </li> <li>トップテンレポート <ul style="list-style-type: none"> <li>[CPU 使用率が最も高いシステム] テーブル:[キューの長さ]が追加されました</li> <li>[最もボリュームが大きいシステム] テーブル:[ネットワーク総使用率]が追加されました</li> </ul> </li> </ol>
4.0	2004 年 4 月	<ol style="list-style-type: none"> <li>メモリーリソースの最適化レポート <ul style="list-style-type: none"> <li>[過剰使用のシステムメモリー] テーブル:[平均ページアウト]が追加されました</li> </ul> </li> <li>CPU 予測レポート <ul style="list-style-type: none"> <li>[DTT] 選択テーブル: 30 日間と 60 日間の予測が追加されました</li> </ul> </li> <li>メモリー予測レポート <ul style="list-style-type: none"> <li>[DTT] 選択テーブル: 30 日間と 60 日間の予測が追加されました</li> </ul> </li> <li>ファイルシステム予測レポート <ul style="list-style-type: none"> <li>[DTT] 選択テーブル: 30 日間と 60 日間の予測が追加されました</li> </ul> </li> </ol>
4.0	2004 年 8 月	<p>新しいアップグレードパッケージ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>UPGRADE_SR_3.0_to_4.0.ap</li> <li>UPGRADE_SR_CPU_1.0_to_1.5.ap</li> <li>UPGRADE_SR_DISK_1.0_to_1.5.ap</li> <li>UPGRADE_SR_PROC_1.0_to_1.5.ap</li> <li>UPGRADE_SR_NetIf_1.0_to_1.5.ap</li> <li>UPGRADE_SR_LV_1.0_to_1.5.ap</li> </ul>
4.0	2004 年 11 月	<p>新しいデータパイプ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OVPA Collection Datapipe 1.0</li> <li>SysRes OVPA Datapipe 2.6</li> </ul>



バージョン	リリース日	機能 / 拡張機能
4.1	2005 年 6 月	レポートリンク 起動ポイントページ アドホックセレクトレポート 選択テーブル内の色分けグラフ 新しいアップグレードパッケージ : <ul style="list-style-type: none"> <li>• UPGRADE_SR_to_4.1</li> <li>• UPGRADE_SR_CPU_to_4.1</li> <li>• UPGRADE_SR_DISK_to_4.1</li> <li>• UPGRADE_SR_PROC_to_4.1</li> <li>• UPGRADE_SR_NetIf_to_4.1</li> <li>• UPGRADE_SR_LV_to_4.1</li> </ul> 新しいデータパイプ : <ul style="list-style-type: none"> <li>• SysRes OVPA Datapipe 2.8</li> </ul>
4.1	2006 年 5 月	新規バージョン番号のサブパッケージ : <ul style="list-style-type: none"> <li>• SR_DISK 4.2</li> <li>• SR_LV 4.2</li> <li>• SR_NetIf 4.2</li> </ul> アップグレードパッケージと不具合の修正 : <ul style="list-style-type: none"> <li>• UPGRADE_SR_LV_to_4.2               <ul style="list-style-type: none"> <li>— QXCR1000329115: 欠陥のあるビュー (RSRV_OVPA_LOGICALVOLUME)</li> </ul> </li> <li>• UPGRADE_SR_DISK_to_4.2               <ul style="list-style-type: none"> <li>— QXCR1000239305: prop_disk_name 列のサイズを 32 から 255 に変更</li> </ul> </li> </ul>

バージョン	リリース日	機能 / 拡張機能
4.1	2006 年 5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>• UPGRADE_SR_NetIf_to_4.2 <ul style="list-style-type: none"> <li>— QXCR1000235473: prop_netif_name 列のサイズを 32 から 255 に変更</li> </ul> </li> </ul> データパイプの不具合の修正 : <ul style="list-style-type: none"> <li>• SysRes OVPA Datapipe 3.0 <ul style="list-style-type: none"> <li>— QXCR1000247763: 設定ファイルの欠陥</li> </ul> </li> </ul>
4.2	2007 年 4 月	場所独立レポート (LIR) コピーポリシー NRT レポートの最上位テーブルにレートデータが表示されなくなった 長期保管 (LTR) / データアーカイブ UPGRADE_SR_CPU_to_42.ap UPGRADE_SR_to_42.ap UPGRADE_SR_DISK_to_43.ap UPGRADE_SR_LV_to_43.ap UPGRADE_SR_NI_to_43.ap UPGRADE_SR_PROC_to_42.ap UPGRADE_SR_OVPA_to_31.ap UPGRADE_RFC1514_to_41.ap 以下の不具合が修正されています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• QXCR1000187641</li> <li>• QXCR1000282592</li> <li>• QXCR1000305835</li> <li>• QXCR1000317552</li> <li>• QXCR1000332277</li> <li>• QXCR1000333100</li> <li>• QXCR1000349074</li> <li>• QXCR1000349423</li> <li>• QXCR1000350295</li> <li>• QXCR1000351698</li> <li>• QXCR1000351779</li> <li>• QXCR1000353093</li> <li>• QXCR1000353117</li> <li>• QXCR1000368670</li> <li>• QXCR1000371772</li> <li>• QXCR1000380955</li> <li>• QXCR1000393303</li> <li>• QXCR1000396234</li> <li>• QXCR1000409662</li> </ul>

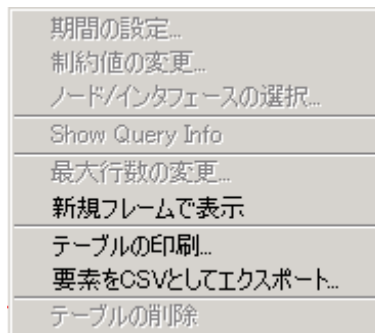
## B テーブルとグラフの編集

テーブルやグラフは複数の方法で表示することができます。通常はデフォルトのビューで十分ですが、別のビューに変更するのは簡単です。レポートビューアを使っている場合には、オブジェクトを右クリックすると、ビューオプションの一覧が開きます。Web アクセスサーバーを使用している場合には、次の手順に沿って、テーブルやグラフのデフォルトビューを変更してください。

- 1 リンクバーの **[設定]** をクリックします。
- 2 ナビゲーションフレームの **[レポート]** を展開します。
- 3 **[表示]** をクリックします。
- 4 **[要素編集の許可]** ボックスを選択します。
- 5 **[適用]** をクリックします。
- 6 テーブルまたはグラフの横の **[編集]** アイコンをクリックします。

### テーブルのビューオプション

テーブルを右クリックする、あるいは、Web アクセスサーバー使用時に **[Edit Table]** アイコンを選択すると、テーブルのビューオプションの一覧が開きます。



相対時間範囲（現在からの）を変更したり絶対時間範囲を設定するには、**[期間の設定]** を選択してください。**[期間の設定]** ウィンドウが開きます。

テーブルに表示する対象の期間を、たとえば **42** 日から **30** 日や **7** 日に、短縮することができます。過去のある日から昨日よりも前の日までの具体的な期間を指定したい場合には、**[絶対時間の使用]** をクリックし、**[開始時刻]** と **[終了時刻]** を選択します。

制約を緩くあるいは厳しくして、制約を満たす要素の数を増やしたり減らしたりするには、**[制約値の変更]** を選択してください。**[制約値の変更]** ウィンドウが開きます。制約を緩くするには値を小さく、制約を厳しくするには値を大きく設定します。

**[ノード/インタフェースの選択]** を選択すると、テーブルの対象を特定のノードや、特定のインタフェース、ノードやインタフェースの特定のグループに制限して、テーブルの範囲を変更することができます。**[ノードの選択タイプを選択します]** ウィンドウが開きます。

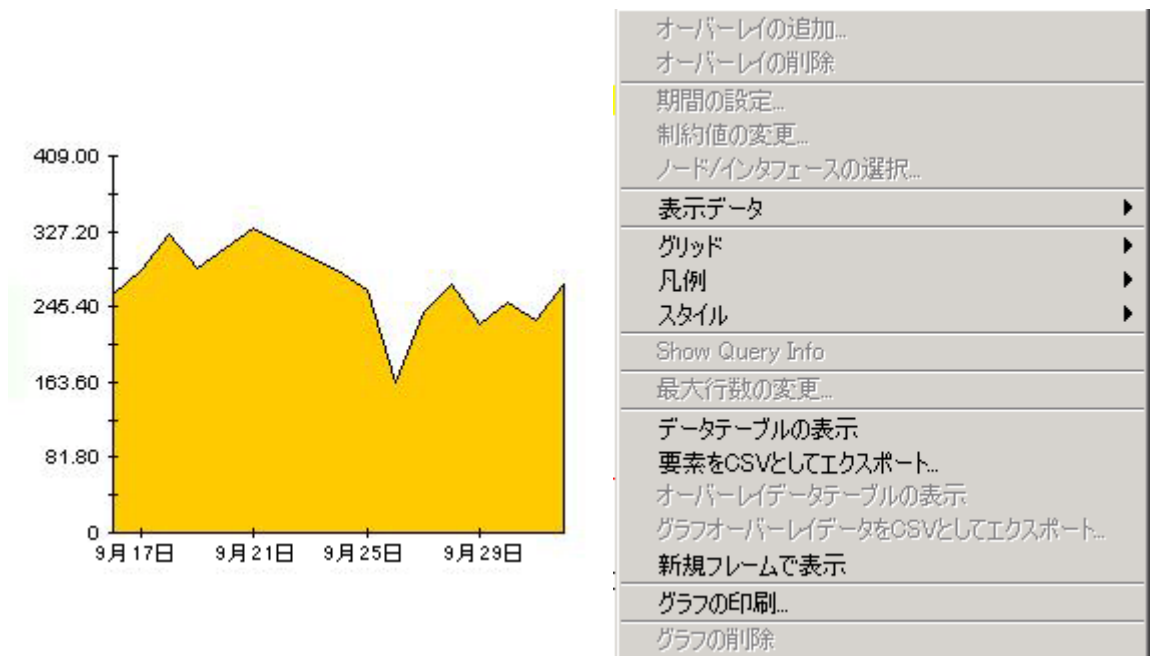
[**最大行数の変更**]を選択すると、テーブルに表示する行数を増やしたり減らしたりすることができます。デフォルトは**50**です。デフォルトより大きい値を指定すると、テーブルを開くのにかかる時間が長くなる場合があります。大規模なネットワークの場合には、デフォルト値を使うとテーブルが最も速く開きます。

[**新規フレームで表示**]を選択すると、次の図のように、テーブルが[**テーブルビューア**]ウィンドウ内に開きます。必要に応じてウィンドウのサイズを調整し、テーブル内のデータを読みやすくしてください。

ボーリングされたIP QoS統計データ - 入力				
過去6時間				
方向	優先度	スイッチ処理されたバイト数	スイッチ処理されたパケット数	期間
入力	0	105,688	675	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	1	0	0	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	2	0	0	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	3	0	0	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	4	0	0	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	5	0	0	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	6	600	5	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	7	0	0	Tue Oct 29 07:00 AM
入力	0	98,334	638	Tue Oct 29 06:45 AM
入力	1	0	0	Tue Oct 29 06:45 AM
入力	2	0	0	Tue Oct 29 06:45 AM
入力	3	0	0	Tue Oct 29 06:45 AM
入力	4	0	0	Tue Oct 29 06:45 AM

## グラフのビューオプション

グラフを右クリックする、あるいは、Web アクセスサーバー使用時に[**グラフの編集**]アイコンを選択すると、次のようなビューオプションの一覧が開きます。

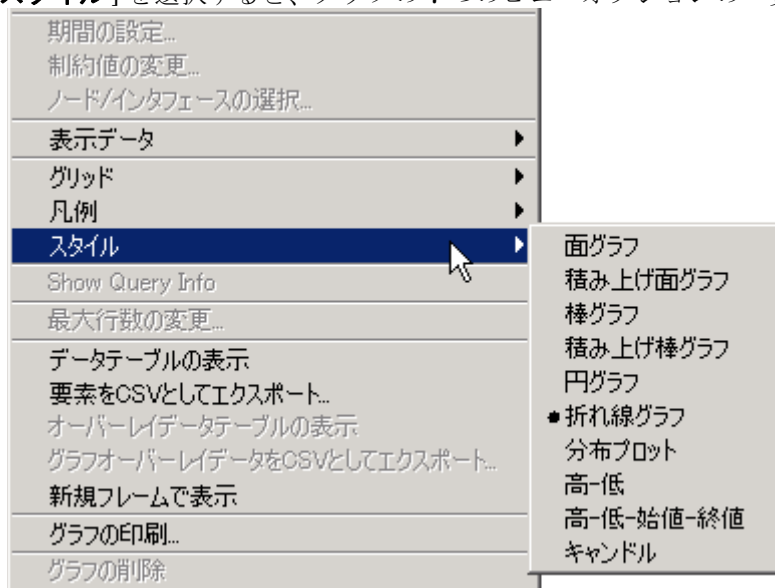


次の表では、各オプションの詳細について説明します。

オプション	機能
[ 期間の設定 ]	上述のテーブルオプションの機能と同じ
[ 制約値の変更 ]	上述のテーブルオプションの機能と同じ
[ ノード / インタフェースの選択 ]	上述のテーブルオプションの機能と同じ
[ 表示データ ]	グラフ上のそれぞれの点について、データをスプレッドシートに表示する
[ グリッド ]	次のグリッド線をグラフに追加する X 軸のグリッド線 Y 軸のグリッド線 X 軸および Y 軸のグリッド線
[ 凡例 ]	レジェンド ( 凡例 ) を削除または移動する
[ スタイル ]	下記の図を参照
[ 最大行数の変更 ... ]	上述のテーブルオプションの機能と同じ
[ データテーブルの表示 ]	下記を参照
[ 要素を CSV としてエクスポート ... ]	上述のテーブルオプションの機能と同じ
[ 新規フレームで表示 ]	[ グラフビューア ] ウィンドウにグラフを開く
[ グラフの印刷 ]	上述のテーブルオプションの機能と同じ

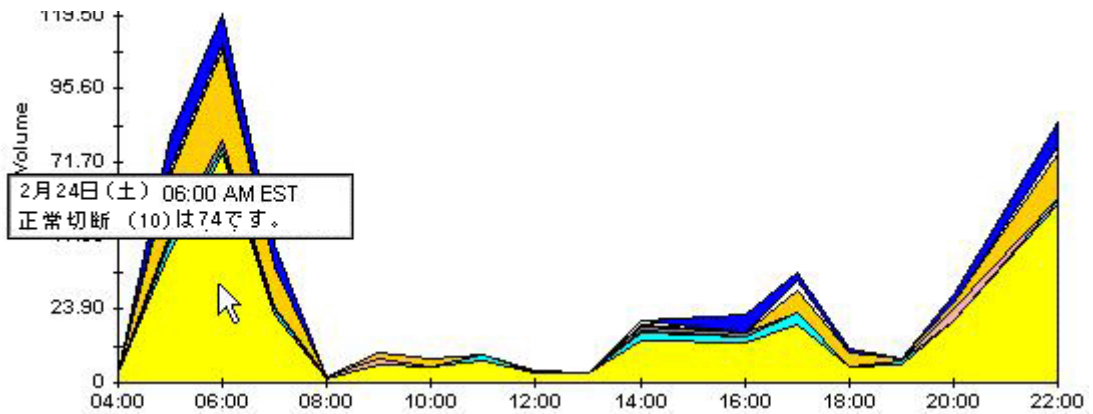
## スタイルオプション

[ スタイル ] を選択すると、グラフの 7 つのビューオプションの一覧が表示されます。



## [スタイル]>[面グラフ]

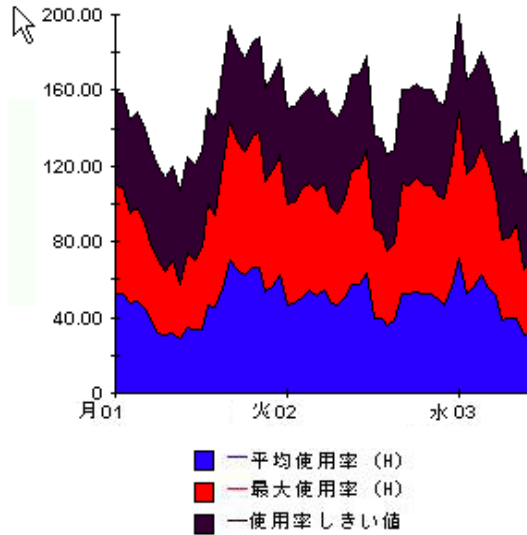
線グラフや棒グラフを面グラフに変更します。このフォーマットでは、相対値や合計値は見やすくなりますが、小さなデータ型の絶対値は見にくい場合があります。色の帯の任意の場所をクリックすると、その場所の正確な値が表示されます。



グラフの期間を短くするには、[Shift] + [Alt] キーを押し、マウスの左ボタンで注目したい期間をハイライトします。マウスボタンを離すと、選択した期間が表示されます。

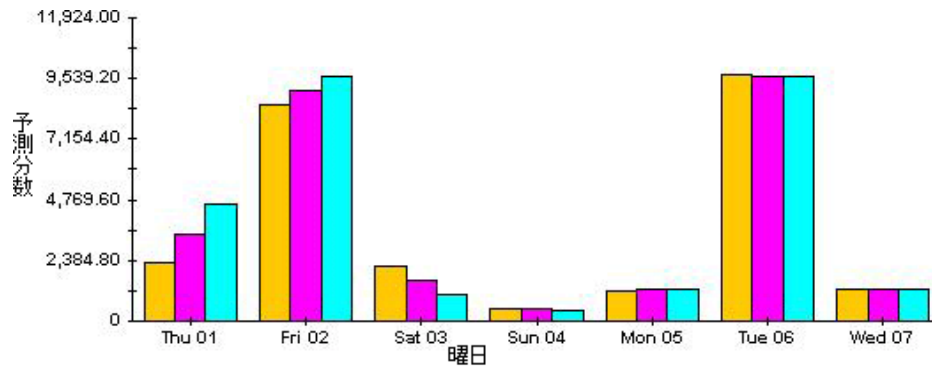
## [スタイル]>[積み上げ面グラフ]

面グラフや線グラフを積み上げ面グラフに変更します。このビューは、少数の変数を表示するのに適しています。



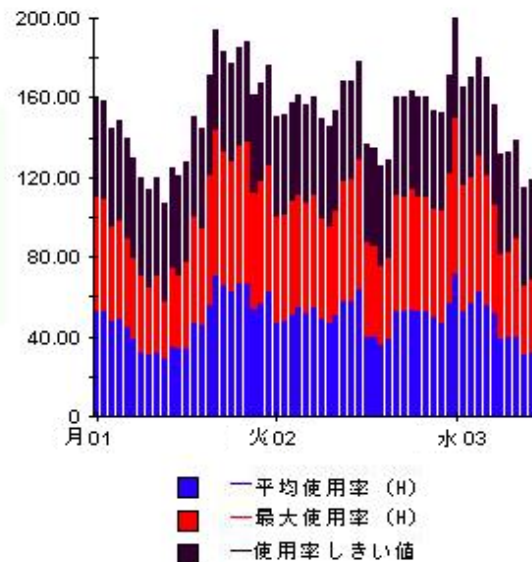
## [スタイル]>[棒グラフ]

グラフを棒グラフに変更します。このビューは、少数の変数の比較的等しい値を表示するのに適しています。次のグラフには3つの変数が表示されています。



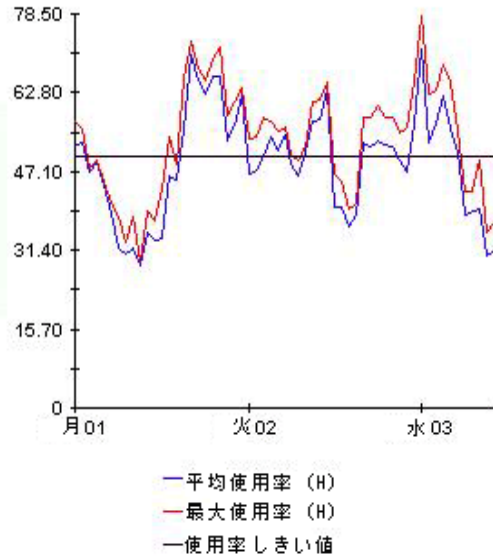
## [スタイル]>[積み上げ棒グラフ]

線グラフや面グラフを積み上げ棒グラフに変更します。フレームの幅を広げると、時間の目盛りは1時間単位になります。フレームの高さを広げると、呼び出しボリュームが10単位で表示されます。



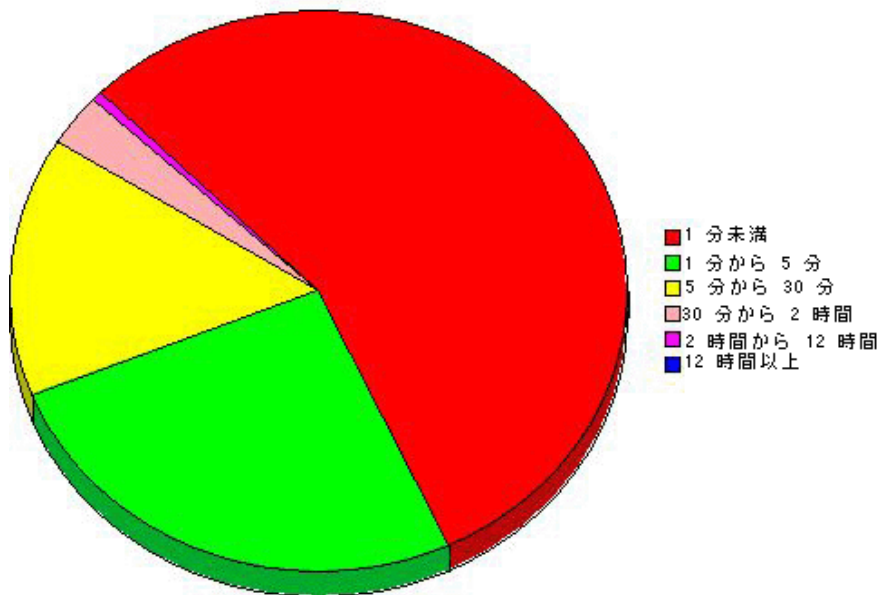
## [スタイル]>[折れ線グラフ]

面グラフの色の帯を線に変更します。フレームの幅を調整すると、データポイントを時間単位にすることができ、フレームの高さを調整すると、呼び出しボリュームを整数にすることができます。



## [スタイル]>[円グラフ]

面グラフを円グラフに変更します。面グラフの帯が円グラフの1つの区切りになり、円グラフ全体が24時間を表すようになります。このビューが役に立つのは、表示するデータ値の数が少なく、対象のデータが1日分の場合です。

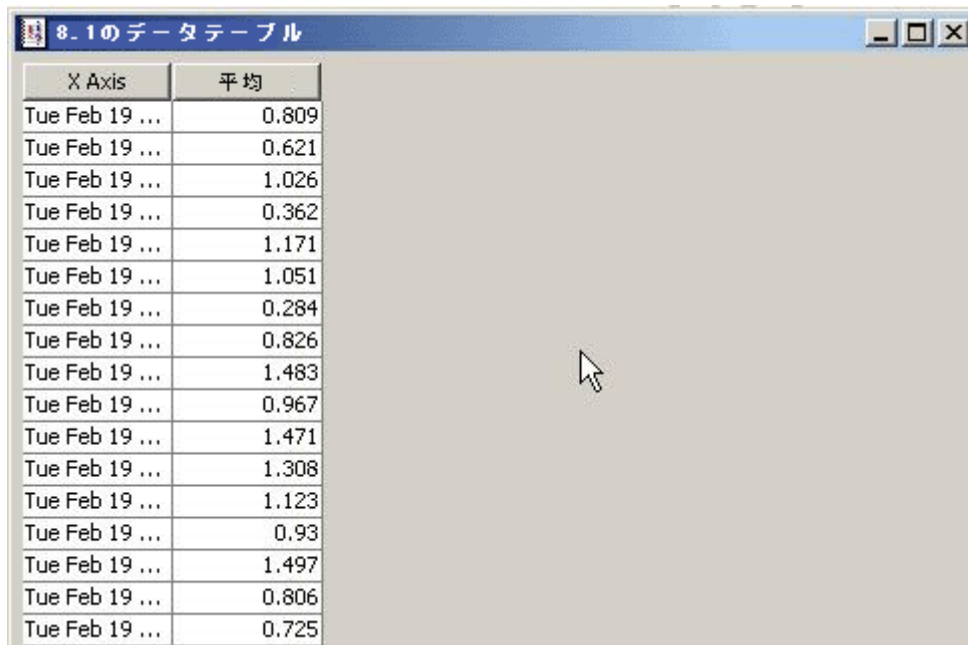


複数の日のデータを見る場合には、1日につき1つの円グラフが、複数表示されます。



## [ データテーブルの表示 ]

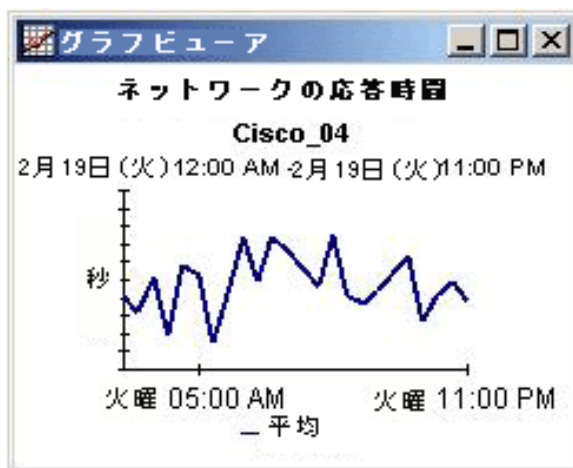
このオプションを選択すると、グラフがスプレッドシートに変わります。



X Axis	平均
Tue Feb 19 ...	0.809
Tue Feb 19 ...	0.621
Tue Feb 19 ...	1.026
Tue Feb 19 ...	0.362
Tue Feb 19 ...	1.171
Tue Feb 19 ...	1.051
Tue Feb 19 ...	0.284
Tue Feb 19 ...	0.826
Tue Feb 19 ...	1.483
Tue Feb 19 ...	0.967
Tue Feb 19 ...	1.471
Tue Feb 19 ...	1.308
Tue Feb 19 ...	1.123
Tue Feb 19 ...	0.93
Tue Feb 19 ...	1.497
Tue Feb 19 ...	0.806
Tue Feb 19 ...	0.725

## [ 新規フレームで表示 ]

グラフが [ グラフビューア ] ウィンドウ内に開きます。ウィンドウのサイズを調整して読みやすくしてください。





# 索引

## C

collection\_manager, 14  
Common Property Tables のアップグレードパッケージ, 13

## G

group\_manager, 14

## H

Host Resources MIB, 25  
HP OpenView Performance Agent, 26

## K

K\_pdatasources テーブル, 25

## N

NNM との統合, 9

## O

OVPA Collection Datapipe, 25

## P

pa\_discovery.data ファイル, 25

## S

SNMP 検出, 25  
SysRes OVPA Datapipe, 26  
SysRes RFC 1514 Datapipe, 25

## U

UPGRADE\_SR\_CPU\_to\_42, 15  
UPGRADE\_SR\_CPU\_to\_4.1, 89  
UPGRADE\_SR\_DISK\_to\_43, 15  
UPGRADE\_SR\_DISK\_to\_4.2, 89  
UPGRADE\_SR\_LV\_to\_43, 15  
UPGRADE\_SR\_LV\_to\_4.2, 89

UPGRADE\_SR\_NetIf\_to\_4.2, 90  
UPGRADE\_SR\_NI\_to\_43, 15  
UPGRADE\_SR\_PROC\_to\_42, 15  
UPGRADE\_SR\_PROC\_to\_4.1, 89  
UPGRADE\_SR\_to\_4.1, 89

## あ行

一般的なレポート  
    エグゼクティブサマリー, 9  
    クイックビュー, 9  
    準リアルタイム, 9  
    トップテン, 9  
    ホットスポット, 9  
    予測, 9

## か行

カスタマイズしたデータテーブルビュー, 16  
カスタマイズしたデータテーブルビュー, 14  
カスタマイズしたプロパティデータの追加, 10  
グラフのスタイルオプション, 93  
グリッドオプション, 93  
グループフィルター, 10

## さ行

最大行数の変更オプション, 93  
サテライトサーバー, 49  
新規フレームで表示, 92  
絶対時間の使用, 91

## た行

[データテーブルの表示], 93  
データパイプマネージャ, 15  
データまたはプロパティテーブルのカスタムビュー, 14  
デモパッケージ, 11

## は行

バージョン履歴, 87

表示されたデータオプション, 93

フォーム

システムプロパティの更新, 50

ファイルシステムのプロパティの更新, 52

不具合の修正

QXCR1000235473, 90

QXCR1000239305, 89

QXCR1000329115, 89

分散システム, 14

分散システムの設定, 20, 49

ポーリングポリシー, 14, 16

## ら行

リモートポーター, 14

レジェンド(凡例)オプション, 93

レポートパック CD からパッケージを抽出する, 21

レポートパラメータ, 10

レポート表示のオプション, 16